

2006年度

経済学部 キャリアデザイン
～経済学部生のキャリア形成～

講義録

2007年3月

立命館大学

経済学部 キャリアデザイン～経済学部生のキャリア形成～

講義録刊行にあたって

経済学部長 平田 純一

立命館大学経済学部では、2005年度からキャリアオフィスの支援を受け、1回生を対象とするキャリア形成科目を開設しました。この冊子は、2006年度のキャリア形成科目の講義記録をまとめたものです。

21世紀に入って、日本の若年労働市場は、正規雇用者数の減少、パート・アルバイト等の非正規雇用者数の増加、正規雇用における転職の増加といった形で非常に不安定になっています。こうした状況を生み出した原因は複雑で、単一の要因のみで説明することは適当ではありません。しかしながら、新規卒業生を採用したい企業の意識と新規学卒者の意識の間にずれがあり、結果的に労働市場が不安定になっていることは容易に想像することができます。

立命館大学経済学部で、キャリア形成科目を1回生対象として開講した理由は、こうした労働市場の状況をなるべく早い段階で学生諸君に伝え、大学生活4年間を目的を持って過ごしてもらいたいという希望からです。もちろん、大学は就職活動をするためにあるわけではありません。しかしながら、現代の学生諸君が大学生活の中で、身につけなくてはならないことは、非常に多くなっているのが実情でしょう。こうした状況を大学の教員が講義の中でいくら説明しても学生諸君にはなかなか受け入れてもらえないようです。そこで、この講義では、実際に企業で採用活動に携わっていらっしゃる外部講師と立命館大学の教員とによるリレー講義の形態で、社会の現実を学生諸君に伝え、これを解説するという形態の講義としました。

外部講師の方々の講義では、各種の実習も取り入れられ、学生諸君にとっては新鮮な驚きを経験することのできる講義となりました。最後に提出されたレポートによると、学生諸君にはおおむね好感をもって受け入れられたようです。なにぶん1回生が対象ですので、この講義をどのように受け入れて自分自身のキャリア形成の参考にできたのかと言うことになると、人それぞれではあると思われます。それでも何らかの形で、自分の将来を考え、自分自身を見つめ直すきっかけにはなったようです。

経済学部では、キャリアデザインの講義に続けて、2回生向けのプロジェクト研究「キャリアデザインⅡ」を開講しています。こちらでは実際の企業の現場を見ることも含まれますので、キャリアデザインⅡの受講も含めて本授業から継続した各自のキャリア形成の追及を行なうことを期待しています。

本講義録は、今年度の取り組みを記録し、今後より改善されたキャリア形成科目を構築して行くための足がかりとして利用することに加えて、今回受講するチャンスをもてなかつた学生諸君にも講義の概要を伝える目的も含めて刊行することにしました。本講義を開設する上でお世話になった、外部講師の方々、立命館大学の教員の方々、キャリアオフィスや経済学部の職員の皆さんに感謝申し上げますと共に、本冊子が有効に活用されることを期待致します。

2007年3月

Contents...

講義録刊行にあたって

開講方針

講義内容

- 第 1 講 『①本講義の説明、②「キャリア”って何？」』
- 第 2 講 『自分発見』
- 第 3 講 『組織の中の私たち』
- 第 4・5 講 『キャリア形成とコミュニケーション』
- 第 6 講 『生きる・働く・暮らす』
- 第 7 講 『経済学部生のキャリアエデュケーション』
- 第 8 講 『多種多様な雇用形態』
- 第 9 講 『今日の生活経済 —21 世紀の社会情勢変化と仕事—』
- 第 10 講 『もっと楽しく・もっと深く・もっと美しく。今あなたのすべきこととは』
- 第 11 講 『仕事・会社をめぐる法と権利』
- 第 12・13 講 『未来計画—自分株式会社を設立せよ—』
- 第 14 講 『キャリア形成科目を振り返って』

担当講師からのメッセージ

講義アンケート結果

『キャリアデザイン ～経済学部生のキャリア形成～』 開講方針

授業の目的

- 学生に「自分らしさ」を理解させ、学生が「自ら考え、動き、成長する」習慣を身につけることで学生の主体性を導き出し、積極的なモチベーションを形成する。
- 学生の主体的な取り組みと学部・全学で用意する各種プログラムとを、あるいは各種プログラムと体系的カリキュラムとを、更には個別のプログラムどうしを有機的に結びつけることにより、それらがもたらす効果を最大化する。

科目名等

- 科目名：キャリアデザイン ～経済学部生のキャリア形成～
- 単位数：2単位
- 受講対象：経済学部1回生のみ
- 受講規模：250名程度
- 時間割：水曜日・5時限
- 担当教員：平田純一 経済学部長

授業方針

第1講目を受講し、本講義の説明を理解し、受講を希望する学生を対象とする。

各回のテーマに応じて、経済学部専任教員、学外ゲスト講師によるオムニバス方式で行う。基本的には講師の紹介、コミュニケーションペーパーについての説明を除き、各回の授業行進は講義担当者が担当する。パネルディスカッションについては、コーディネーターを経済学部副学部長が務め、経済学部生(2～4回生)をパネリストとして起用する。成績評価は出席状況・小レポート・最終レポート等で総合的に判断する。

講義内容

	講師・講義テーマと講義内容
第1講 [09/27]	株式会社学研メディコン 就職支援システム 特販部長 大西純一氏 「“キャリア”って何？」から始まる、“キャリア”の語意の誤解解消とキャリアを築く上での大学生活の大切さ、自己・他者・実社会の理解。自分は何を求めて大学(経済学部)に入ったのか、大学(経済学部)で何を実現するのかを考えることの必要性を認識し、講義の目的、進め方などを説明し、大学(経済学部)での学びの意義を再認識する。
第2講 [10/04]	株式会社シンカ 代表取締役社長 長谷真吾氏 『自分発見』 社会が求める人物像と自己実現との関係をテーマとし、自己認識・自己分析の重要性を知る。将来のなりたい自分像に近づくために何が必要なのかを考え、現在の自分自身が達成できている点・できていない点を認識し大学生活の行動目標を設定し、実行計画書を作成。
第3講 [10/11]	株式会社シンカ 代表取締役社長 長谷真吾氏 『組織の中の私たち』 組織の中での様々なキャリアパスを紹介し、組織のもたらす効果とそこでの自己成長についてや、個人の存在と組織との関わりについて考える。私たちは、家族・地域・社会だけでなく、学内の組織(クラス・諸活動グループ)、アルバイトなど、常に何らかの組織の構成員であり、組織の中で生活することによって自分自身の人間的成長に与えられる影響について学ぶ。
第4講 [10/18] 第5講 [10/25]	松下電器産業株式会社 グループ採用センター 定期採用チーム主事 小林真里氏 『キャリア形成とコミュニケーション』 社会で必要とされる実践的スキルを明示するだけでなく、チームワークやコミュニケーションから得られるナレッジ等、学生生活においても基盤となるヒューマンスキルを養うことを目的としたワークショップを実施。
第6講 [11/01]	NHK 大阪放送局 文化部ディレクター 宮本麻衣子氏 株式会社 電通 第6営業局 営業部 小沢拓己氏 『生きる・働く・暮らす』 日本の労働市場の現在・過去・未来を学ぶ。それぞれの時代に、生み出された労働問題と働くことの意義を知るとともに、なぜ働くことが重要なのか、そしてそれが将来どのように生きてくるのかを考えることにより、望ましい職業観を涵養する。
第7講 [11/8]	コーディネーター 立命館大学経済学部教授 谷垣和則氏 『経済学部学生としてのキャリアエデュケーション』 経済学部上回生によるパネルディスカッション パネリスト ・4回生 岡本弘さん(地方公務員I種試験合格・大阪府庁行政職内定・サークル所属) ・3回生 弘瀬未央さん(2005年度中国調査実習・2006年度インターンシップ参加・TISA所属) ・3回生 山川樹林さん(経済学部女子キャリアデザインプロジェクト所属・学外:商品開発選手権参加) ・2回生 永井創さん(2005年度ゼミナル大会1回生最優秀賞受賞・経済学会、サークル所属)

<p>第 8 講 [11/15]</p>	<p>立命館大学経済学部 坂田圭助教授</p> <p>『多種多様な雇用形態』 様々な雇用形態とそれらの説明を含む労働経済の基礎理論。雇用形態ごとの賃金システムの説明。「大学卒業までにかかる経費は？」「正社員 vs フリーター」など身近なテーマを設定し、経済学部生が早期から自分にとっての就職の意味を考える。</p>
<p>第 9 講 [11/22]</p>	<p>立命館大学経済学部 古川彰教授</p> <p>『今日の生活経済』 経済のグローバル化や急速な少子高齢化に伴って変化する国民生活の理解と、今後われわれを取り巻く社会における望ましい生活のあり方を考え、生きる知恵(力)を養う。また、国民生活に深く関わる社会保障制度の基礎知識の習得を合わせて目指す。</p>
<p>第 10 講 [11/29]</p>	<p>デジタル・トウキョー株式会社 代表取締役社長/多摩大学客員教授 教育プロデューサー 横山征次氏</p> <p>『もっと楽しく・もっと深く・もっと美しく。今あなたのすべきこととは』 NPO 法人プロジェクト OIJ 理事長も務めながら、産官学が一体となって「地域経済の活性化」と「地方大学の再生」を図る、地方と大学の教育に注目する革新的活動に取り組まれている横山征次氏による公開講演会。講演内容は、現代の時代背景から、日本という国、日本の社会、学問、学生の目線へと移っていき、社会と学生のつながりについて。「自分とは何なのか」「今をどう生きるべきなのか」を考えることの必要性を知り、“大学生活で自分がやるべきこと”“進みたい道を探すこと”“未来の担い手である自覚を持つこと”を考える。</p>
<p>第 11 講 [12/6]</p>	<p>東京法律事務所 弁護士 笹山尚人氏</p> <p>『仕事・会社をめぐる法と権利』 基礎的知識の習得のみならず、雇用者と被雇用者間の問題をケースワークを交えて学習することにより雇用者の権利を知ることは会社選びにおいて大切であることを学ぶ。</p>
<p>第 12 講 [12/13] 第 13 講 [12/20]</p>	<p>株式会社リンクアンドモチベーション 取締役 エントリーマネジментイースト事業部担当 榊原清孝氏</p> <p>『未来計画 —自分株式会社を経営せよ—』 これまでは、会社に言われるがまま、指示されるがまま従ってきた結果、職業経歴としてのキャリアが作られる仕組みであったが、自己のキャリアは自らが考え、形成する時代になってきているといえる。自らのビジョンに応じてステップアップできる今日、大学生活が卒業後のひとりひとりの人生への準備段階であり、社会に出るために必要な知的・肉体的・精神的体力の蓄積期であることを認識し、大学で何を実現したいのか、学生生活の進め方を計画し、それを計画書へと具体化する。</p>
<p>第 14 講 [01/10]</p>	<p>立命館大学経済学部長 平田純一教授</p> <p>本講義を受け、自らのキャリア形成における現時点での到達点・課題点について小論文作成にあたっての総まとめ講義。講義アンケートの実施。</p>

第1講 2006年9月27日

講義テーマ『①本講義の説明 ②「キャリア」って何?』

講師 大西純一氏 (株式会社学研メディコン 就職支援システム 特販部長)



1. 現在に至る新卒求人倍率の推移をみる。
2. 景気が良い・悪いとはどういうことか。
 - ・ 経済が伸びてきた時代を終えて、ジグザグと不安定な時代。
 - ・ キャリアは就職という概念も含むがその為だけでなく、生活を成り立たせると同時に自分が成長していく過程である。現在の日本は既に成熟化しており、今後を展望すると経済成長という面においては不安定な状況が予測される。その不安定な時代に備えをすることがキャリア教育である。現象の背後にある本質を良く見極める訓練を大学時代にすること。
3. これまでの2つの特徴①終身雇用②年功序列の原則は崩れ去り、エンployアビリティが求められている。
4. 人的資源も3層化し①長期蓄積能力活用型②高度専門能力活用型③流動的人材(契約・派遣)の3つへ分かれてきている。

さらにその下に位置するフリーターは、景気が悪くなれば雇用調整の対象となり、人材になるためのキャリアが積めない。経済が伸びている人手不足は一時的現象であり、これからは人材不足の時代である。

今後の日本の経済状況・その中でのキャリア形成を考える上で

「人口動態」は変えられない。

2007年問題・・・団塊の世代が定年を迎える。退職金(約50兆円)を運用する。

大学全入時代 (全国で大学は744校、05年生まれの子供106万人、18年後までマーケットは確定)

2011年問題・・・2011年7月までにアナログテレビ8500万台がそのままでは使えなくなる。

買い替え需要が生まれる(約10~20兆円)

人口の減少、団塊の世代の年金受給(需要の減少)により、おそらく2012年頃から景気はダウンする。

(当初第一志望に入れなかったが、社会に出てキャリアを積み、転職して成功した事例)
就職氷河期に意に反して(銀行が第一志望)証券会社に就職した女子学生の例

96年に就職、その後チャンスを活かし99年に銀行へ転職

転職出来た理由・・・①時代の変貌(金融ビッグバン、銀行が証券会社の仕事を出来るようになった)

②正社員として仕事をしていて(キャリアを積んでいた)

③年齢が若い

社会の動向を常に見ながら、自分は一体どうしたいのかを走りながら考えていくこと。入りたい業界が経済全体の動きの中でどのように変化していくかを知る。そこに大学で経済について学ぶ意義がある。

5. 立命の意味

6. 3つの転換点について

- ・ 明治維新
- ・ 第二次世界大戦 敗戦
- ・ 1997年～2007年

7. 大学生へのメッセージ

- ・ 学生時代にしか出来ないことをし、有意義に過ごすこと。(就職活動時に3回生が困ることはエントリーシート。料理と一緒に冷蔵庫に色々な材料があれば作れる。)
- ・ 本を読み引き出しを多くすること。知識の空白からアイデアは生まれない。
- ・ 格調高い言葉にふれる。リベラルアーツ(教養)とは価値観を形成するもの。
- ・ 物事の価値判断の基準を身につける。
- ・ 真・善・美を考える。
- ・ 物事を大きく、時間の長さ(歴史)を意識し、生き抜ける考え・技術を身につけること。色々な角度から物事を見る。
- ・ キャリアを考える。自立とはサポートされることが公認されている立場(学生)からサポートする立場になること。

♥ 学生の感想 ♥

✦ 今まで私は「転職」があまり思わしいことではないのではないか、と考えていました。そして、自分が「これになりたい」という職業ではない職業に就く意味や必要性はあるのだろうかと思っていました。ですが、今回の大西先生のお話を聞いて180度考えが変わりました。就きたい職業に就くには「遠回りすること=無駄」ではないということが今日の講義で明確に判りました。大西先生の数年先を見据えた鋭い指摘にも納得できました。目先ばかりを見て将来設計をするのではなく、マクロな視点で物事を捉えて、しっかり将来設計しようという気持ちになり、非常に意義のある講義でした。

✦ 今まで大学は、就職のための通過点だと思っていたし、将来とか未来の事も考えていたけど、とても漠然としていて何も確かだと思えることはありませんでした。だけど授業を受けて考え方が変わりました。確固とした視点から将来を考える事でチャンスがつかめる、これからはこれを心に留めて選択・決定していこうと思

いました。今日受けた授業は就職の為だけではなく、これからの生活にも役立つ大切な話が聞けて、本当に興味深かったです。

- ✦ 今日この講義を聞いて、自分の就職に関する考え方が変わりました。今までは、とりあえず就職出来ればという考えで大学に来ていたけれど、講義の中で「大学は社会人になる為に必要な力をつける最後の4年間だ。」ということを実例を交えて聞き、今のままではだめだと思いました。意識を持って大学生生活を過ごし、社会人になった時に世の中で通用する人間になりたい。そして、その為にこの講義で基礎を学び、その後の大学生生活を充実したものにし、自分を知った上でやりたいことを見つけたいと感じました。
- ✦ 大西さんの「就職のための大学生生活を送るな。結果として就職に結びつくような大学生生活を送って欲しい」という言葉が印象に残った。
- ✦ 就職難と呼ばれる社会において自分の将来に不安を抱いていました。現在の社会状況をしっかり自分の目で確かめて、将来の自分の就職のために学びたいと感じました。
- ✦ 2007年問題や今までの会社の特徴など知らないことばかりだったし、日本の社会の現状を全く理解できていないと感じた。今まではあまり本を読まなかったが、知識を広げるためにも本を読んでいきたいと思う。
- ✦ 今日の講義を聞くまでは、今の時代就職も難しいので、自分の希望する会社に入れなかったらフリーター生活をやってもいいという気持ちがあった。しかし、希望の会社じゃなくてもとりあえずどこかの企業に就職して、そこで仕事を頑張っていれば必ず後々役に立つということを今日聞いて、フリーターにはあまりなるべきでないと感じた。
- ✦ 多ジャンルの読書により自分の価値観を身に付けたい。
- ✦ 日本の経済について、ミクロだけでなくマクロの視点からみることが出来て、雇用に関して深く考えることが出来た。日本の現在の雇用状況やこれから先のことを予測して、いかに自分が大学で培った価値観に合った仕事につけるかが大事だと思った。今、自分が何をすべきか、そしてそのことが未来にどう活かされるかを考えたうえで就職について考えなければならないと思った。
- ✦ これまで限定的な人生観であったことを強く感じました。自分の特性や傾向だけでなく、より幅広い業界、社会、経済を総合的に考え、時代や世界の流れまでを巨視的に見渡すことが自分と社会との結びつきを考える際に重要なのだと思いました。小手先の技術や話法ではなく、世界を考え、自分を見つめ、その間に生まれるものが仕事であり、その戦略がキャリアデザインだと分かりました。
- ✦ 今しかできないことをした方がいいと改めて考えさせられました。大学生のうちにまずあらゆる本を読み、文学や歴史、哲学の知識をつける、色んな角度から物を考えられるような引き出しをもつことの重要性もわかり、本も読もうと思いました。

第2講 2006年10月4日

講義テーマ『自分発見』

講師 長谷真吾氏（株式会社シンカ 代表取締役社長）



～採用活動について（仕事紹介）～

就職状況が良ければ良いほどミスマッチが起こるので危険。06年度1人当たり平均内定数は4.5社だが、3年以内に新入社員の36%が離職（バブル期に次ぐ水準）。ミスマッチを防ぐために、自分はどのような人でどんな仕事をしたいのか。

I. 採用時のミスマッチを無くそうと努力している企業の実態映像を見る。（NHK京都「京の経済最前線 雇用のミスマッチを無くせ」→就職活動は受験ではない。自分がどのような人間かをわかりやすく説明すると企業が判断するもの。

II. 実社会の就職活動におけるミスマッチの事実をデータを基に学ぶ。

1. 世の中で起こっていること①

就職状況は売り手市場・・・ミスマッチが起こる。求人総数は82.5万人だが卒業者数は50万人。

2. 世の中で起こっていること②

団塊世代の大量定年で07～09年に105万人減。22歳人口は3割減。1995年201万人、2006年149万人、2012年124万人。

3. 世の中で起こっていること③

就職率・・・1990年は約9割が就職、2006年は約6割しか就職しない。就職状況が良いほどミスマッチが起こるので危険。

4. 世の中で起こっていること④・⑤

倫理憲章の功罪。現在の4回生の就職活動を例にとってみると・・・景気が良いので（“楽”）。3回生の秋頃、リクナビ登録→1月～3月、企業説明会へ。4月面接へ→じっくり考える余裕もなく何社から内定。自分に合った企業かどうかを見極める暇もなく、実際に働き出してから、「何かが違う・・・」⇒企業と採用者のミスマッチ

<17年前のミスマッチの少ない採用方法との比較>

自分自身がどのような人間なのかを徹底的に話し合い、どのような人生を生きたいか、何が幸せかを問いかける。

- ① 採用の方針が明確。
- ② 相手の状況を徹底的に話し合い、合うかどうかを見極める。〔入社前と入社後の仕事のギャップがないので辞める人が少なかった。〕自分自身がどういう人間かが明確になり説明できると、内定を多数もらう結果に。就職活動のスキルが大事なわけではない。
幸せになるキーは自分の中にある。自分の identity を明確にする。

Ⅲ. 自分のやりたい仕事を探すためにインターンシップに参加する学生の映像を見る。（「奮闘 大学生 夏の就業体験」のCD-ROMを投影）

インターンシップの考え…就職に有利になるからでなくどういった仕事に向いているかの体験が可能。

5. 3つの輪

「会社が求めていること、自分がやりたいこと、自分ができること」を明確にし、重なる部分に注目。

6. ジョハリの窓（自己・他己分析の必要性）

「開放領域、盲点の領域、隠している領域、未知の領域」

Ⅳ. 自己認識、自己分析の重要性をワークシートを作成することによって実感する。

今の自分は過去の軌道の延長線上にある。決断、挫折時の行動は未来に再現されることが多い。

V. まとめ

- ・ 受験と就職は別物。自分に向いている1社を選ぶということの難しさ。
- ・ 就職活動への不安は抱かなくてよいが、間違った入社、キャリアを防ぐことが重要。
- ・ 自分の軸をしっかりと据え、価値観（大切にしたいこと）をはっきりさせ、企業の identity と自分をマッチさせることが大事である。

● あなたの一番大切にしている価値観(アイデンティティ) ●

✦いつまでも自分は自分の人生の主人公。過去も現在も未来も自分の人生は自分の選択の結果である。

✦出来るか出来ないかではなく、やるかやらないか。

✦常に相手の立場に立って物事を解釈すること。

✦感謝の気持ちを忘れないことと、謙虚に生きて前向きに進んでいくことが、大切にしている価値観である。

✦他人と同じことをするのが嫌いなので、あえて人と違ったことをするということ。

✦そのときしか出来ないことをして、後悔しない人生を歩むこと。日々向上、改善すること。

✦人から信頼される人間になるために行動し、常に目標を持っておく。

✦絶対自分に出来ないことはない信じている。才能はやっぱり関係あると思うけど、そこであきらめたら終わりだと思う。

✦自分の持っている目標に向かって一生懸命やり遂げるために努力すること。

第3講 2006年10月11日

講義テーマ 『組織の中の私たち—個人と組織の本質的価値の明確化とその結びつき—』

講師 長谷真吾氏（株式会社シンカ 代表取締役社長）



◆ 組織とは何か？社会で必ず属す組織の中の自分の役割と他との構築関係について学ぶ。

① 組織で働くことの疑似体験ワークを実施。

② 組織で働く目的を明確にするワークシートを講義を聴きながら作成する。

◆ ワークショップを通して価値観の相違を知る。

・年齢・職種・性別の違う13名のうち課題シートに基づき、10名を選ぶ（個人ワーク20分）。選んだ人物と理由をグループディスカッションにて討議しグループで意見をまとめる。（グループワーク20分）※注意点：自分の意見は納得するまで曲げない、個人がリーダーであり多数決は不可。

→ どういう風に物事を考えるか、どういう風に自分の意見を周りの人に伝え、説得させるのか。答えのない中で意思決定をして物事を決めていくことの模擬体験。価値観の違う人と仕事を進めるなかで必要な能力をワークで体感し、学ぶ。

→ ビジネス「正解」はなく結果（＝成果）を出すことがいわば正解のようなもの。実社会に出て仕事をするとバックグラウンドや答えが無いけれども意思決定を求められることが多くある。組織（ビジネス社会）の中には必ず利害関係があり、1つの枠組み（ルール、目的）を前提条件で決めコンセンサスをとることが、物事の決定や組織をスムーズに動かすことにつながっていく。

◆ 振り返りシート（自分とグループメンバーに対する評価を記入）

→ 組織に答えは無いが、あるミッションで実行していくときには、自分の意識と周りの見え方の差が、自分の伝え方、行動特徴の強み、弱みが見える。点数の高低でなくグラフの形が同じかが大切。自分自身の評価に基づいたグラフの形とグループメンバーからの平均点評価に基づいたグラフの形の違いが大きいほど（つまり、自己認識と周囲からの認識のギャップが大きいほど、仕事がうまく進まないという危険性がある。）ギャップの大きい人ほど注意が必要。

組織とは…意識的で計画的で目的を持つようなひとびと相互間の協働である。

組織に属する時に考えるべきこと

① 組織のアイデンティティ（何を大切にしているか、目的、価値観、社会とどのような接点を持ち

たいのかという意志を構造化・言語化したもの、理念＋行動指針)

② その組織の中における自分自身の役割は？

● 学生の感想 ●

- ✦今日の講義はまず自分で考え、そのあとにグループで意見をまとめたので自分が考えなかった、思いつかなかった考えを聞くことが出来てすごくよかったです。みんなそれぞれの意見があり、食い違うところもあったけど、その中で新たな意見が出来たり、考えが変わることもあってすごく勉強になりました。また、答えを探そうと必死だったけど答えはなく、何に焦点をおくかでたくさんの方が答えがでるんだと思いました。
- ✦他人の意見を聞き、また自分の意見も述べ、それをまとめる、結論を出す難しさを改めて感じた。自分の意見を押し付けず、相手を納得させるような根拠となる説明が出来なければならぬ、と思った。でもそれぞれが自分の意見が一番と思っているので、そこを一つの結論にまとめることにはかなりの時間がかかった。
- ✦今後何か決断を迫られたとき、また組織というグループの中で一つの答えを出すとき、今日学んだことを活かせればと思います。
- ✦ワークを行って、自分でみた自分と組織の中で見られている自分とのギャップに驚かされた。自分がどういう人間でどうなりたいのか、どうすればいいのかを見つめ直すきっかけにしたいと思った。

● あなたが考える組織と個人のあるべき関係 ●

- ✦自分を出しつつも人の意見にも耳を傾け、相手の考えていることもしっかり理解し、みんなが納得するようになることが組織と個人のあるべき関係だと思う。
- ✦「one for all, all for one」考えが組織と個人の関係に重要なのではないかな。
- ✦組織の理念や価値観をはっきりと理解し、組織内の仲間内同士が共有するべきだと思う。こうすることで、組織と個人が連動し、効果的にワークすると思う。
- ✦個人と組織は互いに独立しており、個人は明確な目標や意志を持ち、それを相手に伝える方法もきちんと身につけておく。組織というのはそういった個人が何人か偶然に集まった時に起こるものだと思う。
- ✦組織と個人の相互関係は相互補完の関係であるべきだと思いますがその原則的な優先順位はしばしば組織の方にあるとも考える。
- ✦個人が全く同じ意見をもつことはないので、組織全体で一つの価値観を決め、その中で個人の意見を出していくという関係が最もよい。
- ✦個人が組織内で埋没してしまう前に個人と組織は互いに努力し、発展していかなければいけない。
- ✦組織と個人はお互いに信頼しあえる関係であるべきだと思う。

第4講 2006年10月20日／第5講 10月27日

講義テーマ 『キャリア形成とコミュニケーション』

講師 第4・5講 小林真里氏 (松下電器産業株式会社 グループ採用センター 定期採用チーム主事)



第4講

◆ ペアワークを通じてコミュニケーション(聞く・話すスキル)を養う

- ・友人同士でない2人組でペアを組み、聞く(質問・要約する)スキルと話す(会話力・説明力)スキルのトレーニング

→それぞれのスキルに必要なポイントを教わり、それらを意識しての会話を実践する。コミュニケーションのベースである非言語(表情、抑揚など)の大切さを実感して学ぶ。

I 導入

コミュニケーションで重要なこと＝「大人度」を上げる(心の余裕)

企業が採用時に重要視していること①コミュニケーション能力②基礎学力

※ 仲の良い人達とだけ話し「社会人基礎力」が落ちている。携帯電話の普及により友達にダイレクトに連絡をとることが可能。家族以外の大人と話す機会が減っている。

《ワーク1》 “嘘つき自己紹介” 自己紹介の中に1つ嘘を含む。

① 名前の由来(表面的) ②好きな食べ物と理由(趣向) ③今まで一番熱中したこと(コア)

→コミュニケーションの基本スキル

- ・ 基本の「挨拶」から始める。
- ・ 態度の類似性、自分と共通項を持つ人のことを好きになる傾向が高い。
- ・ 自己開示、アイコンタクト(相手の喉元を見ながら話すのがコツ)
- ・ 話の中身の配分(情報6、意思4)を考えて根拠を含み伝達・交換する。

コミュニケーションとは

「コミュニケーション」の定義＝人間関係において、言語、文字、身振りなどによって意思や情報などを伝達、交換し合うこと

手段＝話す・聞く・書く／中身＝現代は「情報>意思」の傾向だが「情報&意思」が望ましい。

II 聞くスキル

《ワーク2》「聞き方の基本」テーマ：私の出身地

〔基本の聞き方〕 言語＝相槌／日言語＝体の向き・視線・うなずき・表情が有効
→逆につまらなさそうに聞いたときと比較してみよう。

〔質問の仕方〕

Open (開かれた)・・答える側が自由に答えられる質問

Close (閉じた)・答える側が「はい」「いいえ」で答えられる質問

否定的(過去)「なぜ」「どうして」と過去の記憶を問う質問…場合によっては相手を萎縮させてしま
うため、注意が必要。

肯定的(未来「どうしたら」と将来の可能性を問う質問の使い分け

〔要約の仕方〕 相手の話を正確に聞き、事柄と気持ちを明確化する。

《ワーク 3》 テーマ：私の勉強の悩み

「事柄の明確化」・・・「つまりこういうことですね」

「気持ちの明確化」・・・「あなたの気持ちはこうなんですね。」

III 話すスキル

〔会話力(2WAY)〕 お互いに明確化しながらの会話、語尾までしっかり話す。

〔説明力(1WAY)〕 話の事前構成、周辺言語(声の大小・高低・スピード)を意識して話す。

《実習④》

◆ PREP 法(結論先出し法)を意識し、テーマに沿った内容でコミュニケーションの練習。

・話の組み立て順序：①P=Point(結論・主旨・事柄)、②R=Reason(理由)、③E=Example(具体例・実
例・事例)、④P=Point(結論・主旨・事柄の反復)を事前構成し、相手に適切な周辺言語を使ってス
トーリーを伝えるトレーニング

→PREP 法の要点を学び、あらかじめ決められたテーマ「私のおすすめする授業」を話題構成 5 分・発
表 2 分のペアワークを実践し、結論を先に述べる会話力の重要性を知る。

声の抑揚、強弱、間、結論に結びつく正しい具体例を挙げるのが大切である。

※コミュニケーションは非常にデリケートなものであり、誘導者の気持ちが大事である。

(相手の立場に立って考える。相手の調子・様子を見極める。)

《実習例》二人ペアになり、一人が目を閉じて、もう一人が手をとって声で誘導して歩く。

→誘導する側には常に相手への配慮が求められるが、コミュニケーションも同様である。

コミュニケーションの 5 原則

原則 1：相手に対する最低減の**想像力**をもつこと

原則 2：相手を観察してから**タイミング**を決める

原則 3：HOW(どう伝えるか) < WHAT(何を伝えるか) < WHY(なぜ伝えたいか)が重要

原則 4：返事は相手次第。**Yes** 半分、**No** 半分と考える。

原則 5：コミュニケーションの責任の**半分**は自分にあると考える。

質問する力の低い学生、社会人基礎力の低下しているのが増えており、企業が学生に対して「質問力」を見る採用試験なども導入し始めている。

♥ 学生の感想 ♥

- ✦ 初対面の人とコミュニケーションを取るのがこんなに大変で重要なことだとは思っていなかった。
- ✦ 企業が求める能力にコミュニケーション能力と基礎学力が最重要視されている事に驚きました。
- ✦ 普段我々が何気なく行っているコミュニケーションも、考えると結構奥が深いものだと思います。コミュニケーションの仕方によっていろんな効果を相手に与えること、PERP 法により相手にわかりやすく伝えること、開かれた質問をすることで話が広がることなどたくさんを学べて面白かったです。
- ✦ 「採用試験」とは「大人度」を見るところである、と聞いて危機を感じた。立命館の学生でいる残り 3 年半で「大人度」を上げる努力をしようと思った。普段から挨拶をする習慣をつけるだけでも十分力になると思った。
- ✦ 普段の生活の中で会話をする相手は同じ年代の人間が多く、親やバイト以外で年配の人達と話す機会はあまりありません。果たして自分は会社に就職して自分より 10 以上年の離れた人達とうまくコミュニケーションがとれるのだろうか、自分を見つめ直すいい機会になりました。

第 5 講

5 人のキャラクターが異なる人物が登場するストーリーを聞き、まず個人で共感する人物の選択とその理由を書き、それを元にグループで最終結論をまとめるグループディスカッション。<ルール：敬語、PREP 法を使って行なう。>

- ◆ → 多様な意見・価値観が存在することを理解すると同時に、各人が自分の考えを整理し、意見・価値観をグループメンバーに説明（コミュニケーションスキル：要約）、複数人数でのコミュニケーション（異なる意見・価値観を調整する）能力を身につける。

5 人の人物のうち、もっとも共感しない人物について話し合う。

- ① A 子・・・28 歳キャリアウーマン。B 男という 30 歳の恋人（トルコ在住）と遠距離恋愛中。
- ② B 男・・・30 歳のビジネスマン。トルコで働いている。A 子の恋人。
- ③ C 男・・・29 歳 A 子の同僚。お金持ちの息子。
- ④ D 男・・・29 歳 A 子の同僚。A 子に好意を持っている。
- ⑤ E 男・・・30 歳 B 男の親友。A 子に好意を持っている。

ストーリー

B 男がトルコで大地震にあい、連絡がとれない。C 男は 1000 万円で自家用ヘリをトルコまで飛ばすといい、D 男は一晩限りの付き合いをすれば船を出すという。

A 子は悩んだ末に D 男の申し出を受け入れ、トルコで B 男と無事再会を果たす。

しかし、罪悪感にさいなまれた A 子は B 男に本当のことを言った結果、二人は別れることになった。以前から A 子に好意を持っていた E 男はすべてを受け入れ、A 子に思いを打ち明ける。

1. コミュニケーションとは・・・（グループワークを終えて）

人は自分と似た価値観を持つ人物に対して共感するが、人と人との関わり、多様性の関わりがコミュニケーション。

2. これからの働き方と、求められる能力について

- ・ ビジネス界の3極化

①稼ぐ人（高い付加価値・報酬を生み出す人）②安い人（仕組みビジネスに組み込まれる人）③余る人（どちらにも所属出来ない人）

・20世紀の働き方（モノカルチャー）から21世紀の働き方（マルチカルチャー・多様な知恵の時代）へ。

- ① 目標は自分で見つける。
- ② キャリアは自分で作る。
- ③ 自ら専門性を磨く。
- ④ 実力成果が評価される。
- ⑤ 多様性、革新性。コミュニケーションできるのが当たり前。多様性を大切に色々な人と話そう。

♥ 学生の感想 ♥

✦人とコミュニケーションをとる時に必要なことというのが、細かくわかってよかったです。先週やったPREP法を実践するのは本当に難しかったし、自分の思ったことを人に伝えるのは大変だと思いました。

✦今の企業が私たちに求めている能力も20世紀とは異なっており、マルチカルチャー（多様な知恵）が必要とされていることを学びました。この状況に対応出来るような人間になるためにも、この一回一回の授業を大切にしていこうと思いました。

✦自分と価値観が近い人が共感出来るということを学んだ。他人と話をする時に、価値観が違ってもコミュニケーションをするには、多様性との関わりを理解する必要がある。

✦この授業でコミュニケーション力の不足と必要性を強く感じたので、今後挨拶から挑戦していきたい。

第6講 2006年11月1日

講義テーマ『経済学部生のキャリアエデュケーション』

コーディネーター 谷垣和則経済学部教授

パネリスト

- ・4回生 岡本弘さん(地方公務員I種 大阪府庁行政職内定)
- ・3回生 弘瀬未央さん(2005年度中国調査実習・2006年度インターンシップ参加、TISA所属)
- ・3回生 山川樹林さん(経済学部女子キャリアデザインプロジェクト所属・代表)
- ・2回生 永井創さん(2005年度ゼミナール大会1回生最優秀賞受賞、経済学会学生委員会所属)



1. 4回生 岡本弘さん

・学生生活で取り組んだこと、卒業後の進路として公務員を選んだ理由。
→児童福祉系ボランティアサークル、エクステンションセンターの公務員講座、国家1種ゼミ、アルバイト、ゼミナール大会で発表する論文作成を通しての研究政策など
資格を取り大手企業に就職しようと考えていたが、児童福祉系ボランティアサークルでの活動を通し、「人のため」に働きたいと考え、公務員に興味を持つ。2回生から公務員講座を取り始め、ゼミでの研究政策を通し指針を得る。3回生時に国家1種ゼミに入り、友人や先生、エクステンションセンター仕事を通しての自分軸を形成。

・学生生活で学んだこと・アドバイス

色々なものへチャレンジし、仕事にしたいものややっていきたいことなど将来なりたい自分を漠然とでも考えていく。→将来行ないたいことが見つかれればどのような方法(アプローチ方法)で達成するのかを考える。情報を十分に集める。→将来なりたい自分になるために今何をすべきかを逆算して考え実行する。→人脈を広げる。人の意見を聞くことで自分自身の考えに幅を持たせ、人に考えを話すことで自身の考えの確認・整理・発見。

2. 3回生 弘瀬未央さん

・学生生活で取り組んだこと

留学生サポート団体 TISA 所属、中国調査実習、インターンシップ

TISA で留学生と知り合うことで中国への興味を持ち、中国調査実習へ参加。ゼミの勉強へもつながる。インターンシップには就職活動を控え、働くことを実感するチャンスとして応募し、立命館大学BKCインキュベータでwebを立ち上げるプロジェクトを担当。ビジネスマナーや仕事の進め方、

心構えを学んだ。

・学生生活におけるアドバイス

「自分のアンテナを張り、色々なことを始めてみよう」活動のきっかけ、自分の幅を広げるために色々なことに興味を持ち出会いから感じたことを次につなげることが重要。

3. 3回生 山川樹林さん

・学生生活で取り組んだこと

経済学部女子キャリアデザインプロジェクトでの活動、プロジェクト研究での活動がきっかけで、商品開発選手権に参加。

入学して間もなく転部を考えたが女子キャリアデザインプロジェクトに所属。上回生との交流会、講演会の開催や、OB/OG 訪問を新聞として定期的に発行し経済学部生に配布することは、自分のキャリア形成にもつながるし、経済学部生のキャリア意識の向上にも貢献できる。

・学生生活で得たこと・感じたこと

好きなことを見つけ熱中すること、色々な経験、遊ぶことが大切。企画を学生に還元する責任感。人間力（人としての魅力、経験からしか育てられない自分だけのもの）を高めたい。色々な人の考えや夢を聞き、色々な知識を増やし成長したい。

・学生生活におけるアドバイス

「縁と言霊」自分の夢を誰かに離すこと。言葉にすることで縁が生まれ、また縁を呼ぶ。→自然に夢に近づくことができる。

4. 2回生 永井創さん

・学生生活で取り組んでいること

経済学会学生委員会での活動（社会見学、ゼミ紹介冊子「Doors」編集長、ボランティアサークル「RitsBBS」吹奏楽サークル、05年度ゼミナール大会にてインド経済を研究。1回生最優秀賞受賞。

・学生生活について

A0 入試で入学。サークル活動の立ち上げ。経済学会学生委員会での企画。ゼミナール大会での最優秀賞はなぜ頂くことが出来たか。プレゼンテーション能力の高め方。様々な大学生活のパターンがある。

・学生生活におけるアドバイス

自分が成長したいのならなによりもすべきことは人と話すこと。出来ることなら同じ学生ではなく、もう既に働いているような方など。やりたいことは早いうちから決まっている方が得である。しかしやりたいことを見つけることに急いではいけない。もしも考えて見つからないのであれば「非日常」を心がける。思いつきで行動することしてみる。何ら難しいことではない。単位を取得することも大事だが、124単位であればやる気になったら簡単に取得出来るはず。大事なものは、単位取得ではなく、それ以外に何が出来るか。また、何が出来たかによってこれからへの自信がつくのではないだろうか。

♥ 学生の感想 ♥

- ✦4人の方皆さんが自分のやりたい事を見つけて挑戦出来ていてすごいなあと思いました。「自分のやりたい事」は私の中にも芽生えているので、是非やってみようと思えました。
- ✦私は受験で失敗したので、就職では絶対自分の望むところに行きたいので、コミュニケーション能力とか積極性を養うために色々なことに挑戦しようと考えています。
- ✦人に自分の夢を語ることで、何かの縁で道が開け、夢が実現するという話はなるほどと思いました。
- ✦やりたいことがなくても焦らずに行動すべき！一回生の時から明確な目標がある人は少ない。だからとりあえず自分の好きなことを見つめ直すことが大切。
- ✦大学4年間でやれることには無限の可能性があるんだなあと思いました。
- ✦3回生の方が女子キヤリの活動によって、人間力が身についたとおっしゃったのを聞いて、経験からしか生まれない、人としての魅力はこれから積み上げていきたいものだと感じました。生まれ持った人柄と経験から得た人間力とをうまく重ねていけば、自分という個性の持主になれるのではないかと考えました。そのために、個性あふれる幅広い分野に携わる人々と関わりをもっていきたいです。
- ✦パネリストの人達はすごく生き生きとしていて、自分のやりたい事を本当に楽しんでやっていることが伝わってきました。好きなことを発展させてやりたい事につながっているのが、すごいなと思った。
- ✦僕は人見知りするので、交友関係はあまり広がりません。しかし、社会人になるには、人とのコミュニケーションやプレゼン能力が必要となるので、これからの大学生活では色々な人と交流し、様々な価値観を身に付けたい。また自分に自信を持ちたい。
- ✦自分が将来したいことが決まっていなくて少し焦っていたが、今回パネルディスカッションを通していろいろな話を聞くことが出来、今自分が何をすべきかが分かった。
- ✦「何がやりたいのか分からない」という質問に対しての答えを聞いているとき、自分が今まで何をやりたいのか悩んでいただけで、たいした行動を起こしていなかったということを感じさせられました。そして今後、非日常的なことや、自分の興味の薄い分野のことにも挑戦し、自分の幅を広げていきたいと思いました。
- ✦これから、たくさんの人に出会って、自分のアンテナを立てて、興味を広げていこうと思いました。人と出会って話をする事が、キャリア形成につながり、またそれだけじゃなくプレゼン能力の向上になったりもするので、人と関わっていきながら大きく成長したいです。
- ✦自分の幅を広げるためには、常に色々な方面にアンテナをはることが大切です。今日の講義を聞いて、まず自分の好きなことや、やりたいことを人と話してみようと思いました。
- ✦人と交流することで、交流した人から刺激を受け、新たなことに挑戦する力を持つことが出来、自分のよいところを伸ばし、人間力をつけることにもつながるのだと思いました。
- ✦『『大学生活、最高やった。』と言えるように頑張る』という言葉が嬉しかったです。

第7講 2006年11月8日

講義テーマ『生きる・働く・暮らす』

講師 宮本 麻衣子氏 (NHK 大阪放送局 文化部 ディレクター)

小沢 拓己氏 (株式会社 電通 第6営業局 営業部)



「はたらくってなんだろう？」

ETV 特集『就職4年目の私』のオープニングVTR 上映 (10 分間)

同期が「会社を辞めていく」のは人生の実感が持てない、何のために働くかがわからないという現象が起こっているのからではないか。挫折経験を味わっておくことで理想と現実のギャップに耐え、想像を超えることが起こったときに自分を見つめることが出来る。

1. まずは、「仕事」というものを、人生でどう位置付けるか

▽「仕事で自己実現とか、やりがいとか叫ばれる世の中だけれど、まずは仕事をどう位置付けるかを考えることが大事」

▽取材の中から見えてきた、様々な「仕事」の捉え方

「仕事を考えるときは、お金・自分の時間・やりがいの優先順位を考える」

▽落とし穴には要注意

「就職活動自体が受験みたいになっていて、有名な会社・カッコいい仕事を目指していた」

「就職活動の時は、ただ「内定が欲しい」と思っていた。しかし、働き始めた時、人生設計としてどう働きつづければいいのか、ということを考え始めた」自分は仕事をどうしていきたいのかを考えておく。

ノウハウものに振り回さず自分の仕事を見つけられる。

2. どうやって、「やりたいこと」を見つけるか？

▽「やりたいこと」を見つけるのは、難しい。そんなことを考えていたとき、取材中に知ったこと。幼い頃、「やりたいこと」を持っていた人は、今の仕事に満足できる人が多いらしい。

それは、「やりたいこと」が叶ったからではなく、「やりたいこと」を自分で修正しながら、本当に「やりたいこと」を見つけていったから。

▽「就職活動のとき、5～10年後の自分を考えろと言われたが、少し意味が違う。10年後の自分を描くこと自体が大切なのではなく、そこから修正を加えていく作業が大切」

3. 取材を終えて思うこと

▽障害者番組を通じて考える「はたらく」こと、「社会参加する」こと…「いきる」こと。
色々な形で社会とつながる事で存在意義と働くことを考えてほしい。

「等身大の社会人」～仕事体験談～

- 1日18時間労働、休日が仕事の時もある。セクハラパワハラ等バラ色だけでないことも多い。
- しかし今が一番楽しい。仕事の中にどれだけ楽しみを見出せるか。自由。
- 学生と社会人の違い。受験とは違うので答えはない。主体性を持つことが大事である。大学のシステムを使いたおす。
- 環境は自分で考え作り出す。友人（利害関係のないもの）恋愛（就職活動は恋愛に似ている）
- 自分自身が将来への地図を描けるか。自分にとっての広告
- リアルの半歩先の仕事とは。バランス、ライフカード。

♥ 学生の感想 ♥

✦目先の就職や内定にとらわれずに、自分に合った仕事を考える方が重要だと思いました。

✦「仕事」というものを、人生でどう位置づけるかという視点に感銘を受けた。お金、自分の時間、やりがい、どれにウェイトを置くか。これなら自分も考えやすいと思った。仕事は自分の人生にとって何なのか、もう一度考え直し、「やりたいこと」を少しずつ修正しながら、自分の進路を確立させたいと思いました。

✦今日の講義を聞いて、自分の中の社会に対する安易な考えが払拭された。自分が一生付き合っていくことになる仕事を、今から真剣に選んでいきたいと思った。

✦今日の講義を聞いて、「仕事」への捕え方について考え深く考えさせられました。以前まで、私は一度きりの人生、自分のやりがいを感じ、自らを高められる職につきたいと考えていました。しかし、その仕事もある程度の生活が成り立っているからこそ出来るのであり、自己満足だけではいけないと思いました。今後、就職活動をするにあたり、企業のブランドに左右されることなく、自らが興味を持ったことを様々な角度から見極めて、将来の職探しをしたいと感じました。

♥ あなたが考える働くことの意義と10年後のビジョン ♥

✦働くことの意義というのは、働くことを通して、自分の存在を確かめたり、生きがいを感じることが出来ることだと思います。10年後のビジョンとしては、自分にとって良いと思える仕事に就き、周りの人から尊敬されるような人、積極的に人のために動くことができるような人になれればいいと思っています。

✦働くことの私の中の一番の意義は、生活するためにお金を稼ぐことだと考えています。それだけではなく、自分がお金を稼ぐために就いた仕事をする中で、自分の生きがいを見つけたり、仕事をこなして充実感を得たり、楽しさを見つけたりすることも働くことの意義だと思います。

第8講 2006年11月15日

講義テーマ 『多種多様な雇用形態』

講師 坂田 圭経済学部助教授（立命館大学 経済学部）



1. 労働経済学とは何か。

定義:個人にとっては働くことの経済学。就業選択も含まれる。企業にとっては雇うことの経済学。採用選択、解雇選択。

経済主体の均衡:与えられた条件下で最適な状態(個人、企業が目的を最大化しているか)労働経済学分析対象例:なぜフリーター、ニートが近年顕在化したのか、等。

労働力の観測:15歳以上の人口→労働力人口(就業者、失業者)・非労働力人口

2. 日本の労働市場の概要

男性の労働力率が壮年期はほぼ100%で推移している(近年は台形型が外に広がる傾向、就学、定年退職の影響)のに対し、女性は25~34歳の間で低下し(出産・育児の影響)、その後上昇するM字カーブを描いている。最近はややM字カーブの底が浅くなり、右にシフトしてきている。(女性の晩婚化・少子化の影響、育児出産が落ち着いた40歳頃には労働力が戻ってくる)

3. 日本的雇用慣行

①終身雇用②年功賃金③企業別労働組合。バブル期には脚光を浴びた長期的雇用慣行が90年代以降の不況により評価が低くなり表面化。成果主義を導入し崩壊したかは定義に依存する。「終身雇用制度」長期雇用慣行は主に大企業中心の制度。リストラを行ってこなかった訳ではないが、2期連続の赤字があって踏み切るとというのが特徴。

4. 若年雇用問題ーフリーター、ニート、パラサイトシングル、若年失業率の悪化問題はなぜ顕在化してきたのかー

- ・供給者側説明によるフリーターの増加要因は、若者の就業意欲の低下、労働の趣味化、仕事を選びすぎる「ぜいたく失業」である。失業率は高いのに転職希望率は上昇が見られるのは若年層の就業意識の変化ではなく、不況期に就職活動をしたために起こるミスマッチの可能性。中高年層の雇用維持にとまなう労働需要の大幅減退に要因。(需要者側の説明)

- ・ 就職率の悪化（年齢別失業率の推移は若年層、壮年層で悪い）と中高年雇用を維持するシステム長期雇用計画。
- ・ 解雇権濫用法理・・・企業が採用に慎重になる一因。解雇制限法によって雇用機会を減らす。①人員整理の必要性②解雇回避努力③被解雇者選定の合理性④労働者（労働組合）に対する説明、協議を十分に尽くしたこと、の条件を満たさない場合、余剰人員の解雇は解雇権の濫用とされる。
- ・ 若者の希望転職率の上昇は、不況期の不本意就業によるものである。
- ・ インサイダー・アウトサイダー理論
- ・ フリーター・ニートで問題なのは、非正規社員は訓練機会が少なく若年の技能蓄積が出来ないこと、一度フリーターになると正社員になるチャンスが少なく長期に渡り影響することである。

日本は一度失敗するとチャンスの少ない社会である。最初の就職が、生涯賃金、昇進等長期にわたって影響する。政府の再チャレンジ政策はこの状況に対応するものであり若年層の格差は拡大する傾向。早い段階から就職について考えておくことが必要である。

● 学生の感想 「若年者雇用問題について」 ●

- ✦やはり雇用の問題にはその時における経済の状態が大きく関係していると思った。フリーターやニートが増加しているのが就職が困難であったり、それによってやる気がなくなるというだけでなく、いわゆる仕事の趣味化が進んでいたりといった要因もあると知って驚いた。
- ✦若者が経済的に自立しにくい社会は、親の世代にも大きな負担と不安を引き起こしています。これからは、安定した雇用と人間らしく働ける労働条件の確保など、働く若者の当然の権利を守ることこそ求められていると思いました。
- ✦今までフリーターやニートの増加の原因は「自分のやりたい仕事じゃないから」、つまり今日の授業で言っていた「ぜいたく失業」だと思っていた。しかし、不景気での就職活動による仕事のミスマッチやインサイダー・アウトサイダー理論など、労働者の意志だけが原因ではないことが分かった。
- ✦若年雇用問題、特にフリーターやニートの増加についてですが、今まで私は若者に原因があるのだと思っていました。生活が昔に比べ豊かになり、いわゆる「ぜいたく失業」が増えていると思ったからです。今日の講義で原因はそればかりでなく企業側にもあるということを知り、驚きました。特に不況期に就職活動をしたために起こるミスマッチの影響がこれほど大きいということには気づきませんでした。
- ✦フリーター経験者は結婚年齢が高いというのも、少子高齢化が進んでいる現状にとっても重大な問題だ。このままでは、ますます少子化が進んでいってしまうと思う。今の日本は、一度失敗したら厳しい社会、というのも前に聞いたことがあった。確かにこのような社会ではチャレンジしにくいと思った。問題が多々ある世の中だが、少しずつでも改善策を見つけていきたい。

第9講 2006年11月22日

講義テーマ 『今日の生活経済 —21世紀の社会情勢変化と仕事—』

講師 古川彰教授（立命館大学 経済学部）



1. 人口減少・高齢化と仕事

1-1 人口減少は止められない

子どもをふやすためには、①出産適齢期の女性が増える②有配偶率をあげる③配偶者のいる女性の出生率をあげる→制度的に実現可能なのは③のみ＝「少子化対策」

少子化対策としては、①出産休暇、②育児休暇、③保育施設の拡充が目下の急務

1-2 高齢社会のマイナスイメージの転換を

高齢者が増加すると、需要の停滞、公的負担の増大、社会的連帯の喪失などのマイナスイメージがつかまとう。しかし見方を変えれば、人口減少経済の望ましい姿として、①個人の能力や個性が貴重になる②生産性の高い活動に特化することにより、効率が良く物価の安い社会③個性が尊重され価値が多様化する、などのプラス面もある。

1-3 経済発展のカギは生産性の向上

「労働力人口の減少ペース<労働生産性(労働者1人あたりの生産性)の伸び」ならば経済拡大商品・サービスは「値打ち(価値)」で測られるため、技術力・知識・アイデアが不可欠となる。

人口減少で経済発展した諸外国を例に経済の効率性(生産性)を高めていく必要がある。

1-4 もはや年金に頼れない

年金制度＝現役の勤労世代が退職した高齢者を養う仕組み

高度成長を前提にした現行の「公的年金制度」は少子高齢化が進行する日本ではもはや成り立たず生活困難に（少子化、保険料を支払わない保険者）年金に頼らない老後を。

1-5 老後に備えて働き貯蓄する

公的年金だけに頼れない→老年まで働くか、中高年までに十分な貯蓄をするか。

女性においても、パートタイムとフルタイムの生涯収支の差を進路・就職の際に考えること。

⇒働けるうちは働く！そのために、若い頃から仕事能力、仕事上の人間関係など身につけ、会社あるいは地域社会にとって役立つ人材になることが必要。

1-6 まとめ—若いころからのそなえ

① 貯蓄—現役世代にできるだけ貯蓄をし資産運用に努める。

- ② 住宅資産形成—良質で標準化されバリアフリーを備えたハウプランを選ぶ。
- ③ 勤労—若い頃から自己研鑽し、どこの会社でも通用する情報・スキル・働き方の修得。
- ④ 生涯学習—社会参加と生きがいのためにも現役時代からの生涯学習が必須。

2. 経済のグローバル化と仕事の変化

2-1 近年、日本のモノづくり産業の「空洞化」問題と中国のめまぐるしい発展、競争力強化が目立ち、国際市場における中国製品のウエイトが拡大。日本の得意分野は最終製品とは限らない。日本が競争力を持つ長年の経験と技術・技能・ノウハウの蓄積により発揮されるモノづくり分野は、環境変化に伴って必要な技能や人材も変化。

2-2 必要となる技能を持つ人材となるために訓練すべき能力を磨く：

- ①論理的思考能力、②応用力、③コンピュータ教育、④「アナログ」能力(判断力・創造力など)

日本のように人件費の高い経済では、高収益分野に特化することが生き残りの必須条件。スマイルカーブ(収益性の高い川上・川下、低い組立販売)

まとめ：グローバル化した経済活動を成功させていくには、先端的な技術・技能・ビジネスの創造、世界の人々との協同に必要なコミュニケーション能力、論理力、顧客の嗜好やニーズを瞬時に把握し、ビジネスを切り替えていく能力、俊敏性(アジリティ)が要求される。

3. IT化による仕事の変化

3-1 モノづくりと流通を巡る環境変化

見込み大量生産・販売の高度成長期から不良在庫発生リスクのある供給過剰の時代へと。→企業は環境に対応しうる俊敏性(アジリティ)とIT化の最大限の活用が求められる。

例) 部分的な効率化ではない「サプライ・チェーン・マネジメント」の取り入れ

3-2 オフィスワークの変貌—金融機関での一般職の業務変化、「アナログ」化の例—

銀行 97年頃から多様な金融商品の品揃えに対応するため、窓口担当者の知識・スキルUP

損保 第一報から保険金支払まで客と保険会社との交渉過程の全てを担当。経験が必要。

一般事務は子会社の派遣社員が行う。

商社 貿易実務経験者を人材派遣を通して活用

3-3 日本的雇用システムの変革から能力主義へ

日本的雇用システム①終身雇用制、②年功序列賃金・優遇、③企業内労働組合。キャリア形成は企業側の責任。職場内訓練・人事ローテーション、個人評価より平等主義的処遇であったが、IT時代の企業と従業員の関係は、個人と企業がお互いプロとして結ばれることが必要となる。個人が自己の責任と判断で人文の能力を向上させ、能力に基づく成果に対して会社が処遇する、個人が会社を選ぶという形となる。

3-4 デジタル技術とアナログ技術

最低限のIT技術を身につけておくことと、アナログ情報が重要な役割を持つ。

アナログ情報：創意工夫、高度の経営判断、顧客関係など人間関係、論理的思考力、判断力、説得力、交渉力など ⇔ (例) 21世紀のブルーカラー労働者)

ビジネスのアジリティを可能にする情報活用と(データベースとネットワーク利用による情報の共有) どのビジネスでも共通性が高い情報技術だが、アナログ能力が必須である。

3-5 21世紀を生き抜く職業能力

世界、技術、仕事が変われど、モノを考え、ヒトに働きかける能力は変わらない。

これから必要とされる能力⇒①個の確率・自立、②発想力・想像力、③論理的思考能力

④コミュニケーション能力、⑤複眼的思考力

大学の科目から学ぶべきこと⇒①日本語能力、②英語能力、③数学能力

④経済学能力、⑤教養能力

経済学を学べる事は有意義である。

● 学生の感想「少子高齢化について」 ●

✦ どのようにすれば、少子高齢化が進んでも明るい未来を築けるのだろうか。これにはまず、「少子」を少しでも減らしていくことだと思う。子供を産みやすいという環境をつくり、手当を増やしたりして少子化を減らす努力をすべきだと思う。

✦ 子供が減って高齢者が増えると、新しい考え方や技術が減り、海外との交流も減る可能性が出てくると思います。そうすると日本は経済発展が難しくなってくる。そのために新しいものを作り出す人材づくりが大切だと思う。

✦ これから始まるだろう少子高齢化社会について考える時、その社会の明るい面を考えてその時に応じた社会システムを作るという発想は、斬新でおもしろいものだと思う。しかし、若者が減り、高齢者が増え、人口が今よりも減少する中で経済を活性化するのは難しいのではないか。人口が減少する中で活性化するには、自分たちが働いてもものづくりをするのではなく、自分達の頭を使って人を動かしていく側に立たないと産業の拡大は難しく、結果的に経済は活性化しないと思う。

✦ 少子高齢化のもたらす現象の中で一番大事だと思ったのは人口減少で経済が発展する可能性があるという点です。人口減少で経済が縮小することは、新産業や需要の停滞、公的負担の増大等のマイナスな点ばかりだと思っていましたが、逆に労働力が貴重になることで、非効率的な社会や制度が改革されて、低コストで効率的な社会になる可能性があるとわかり、「少子高齢化」についての考え方が変わりました。これから労働力が希少になると個性等が大事になってくると思うので、自分に何が出来るのか、何がしたいのか知り、自分を磨きたいと思いました。

✦ 人口減少が始まってでも経済発展する可能性が残っていることには驚かされました。今までの私には人口減少＝経済衰退というイメージが根付いていました。人口減少により、個人の個性が尊重されるようになり、生産性の低い業種は自然に消えていくことが考えられます。また、雇用と労働者のバランスが保たれるために失業者が減少し、その結果、雇用を守るために行われる無駄な公共事業が削減されていく可能性があります。したがって、少子高齢化によって日本の経済が冷え込む可能性は言われているほど高くないのかもしれないと少し感じました。

● 仕事・働き方が大きく変化することに備え、学生時代に取り組もうと思うこと ●

✦グローバル化する社会に適応出来るよう、国際的な感覚を養っていききたい。

✦他人にはない何か特殊な技術や能力、知識を必要とされると思うので、自分の興味に沿って、研究を深めたり、資格の取得に励みたい。

✦今回の講義で21世紀を生き抜くためにはどんな職業能力が必要なのかを知ることが出来、また自分にはどんな点が足りないのかを認識することが出来た。英語能力、数学能力、経済学能力などは国際経済学科での授業に関連しているものが多いので、日常の授業を十分に活用することが大事だということを感じた。また、授業で養う能力の他に、他人と接することでコミュニケーション能力を磨き、自分で本を幅広く読むことで教養能力を養うなど、大学の外での生活でも将来のために自分の能力を身につける機会はたくさんあるということを実感した。

✦ファイナンシャルアドバイザー、プランナーといった高度な技術を要するようになるので、出来れば様々な資格を取得したい。また、社会に出た時に必要となってくる個の確立、自立、発想力、想像力、論理的思考力、説得力、コミュニケーション能力、複眼的思考力を身に付けるため、日本語能力、英語能力、数学能力、経済能力、教養能力を学びたいと思う。特に、今の自分に最も欠けている日本語能力、おもに自分の考えていることを言葉にする力と英語能力を高めたい。

✦大学生活の4年間は様々な人達との出会いがたくさんあると思います。その中で、どんな人とも打ち解けることの出来るコミュニケーション能力を身に付けたいと思います。また、何が起こっても冷静に対処出来る対応力も大切だと考えます。こういったことは、自らの人生経験から学び取り、身に付けていくべきものだと思います。そのためにも自分の興味を持ったことには積極的に挑戦し、いろんな考えを持った人達との交流、また、その考えを否定するだけでなく共有することが大切だと思います。

✦「個を磨く」ということに取り組みたい。「個」といっても多くの人々と交わる中で個性を発揮するということがある。ゆえに、私は日頃の生活の中で多くの人々と話す、関わることを心がけたい。また、サークル活動を通して、人に自分の気持ちを伝え合う能力を育てていきたい。積極的に色々なことにチャレンジしたい。それによって得るものはたくさんあると考えるからである。

✦今日授業でおっしゃったように、個人の個性や能力が非常に重要になる。「自分」という人間をはっきりさせることを頭に置いて行動していきたい。様々な人と触れ合うことで、「この部分はこの人と似ているな」とか「ここは人と違う」など自分という「人格」の輪郭をはっきりさせたい。

✦国際化が進む世の中についていく為にも、まず英語を重点的に学ぼうと思っています。TOEICのエクステンション講座を受けようと思っています。

第10講 2006年11月29日

講義テーマ『もっと楽しく、もっと深く、もっと美しく～今あなたのすべき事とは～』

講師 横山 征次氏 (デジタル・トウキョー株式会社 代表取締役社長・NPO 法人プロジェクト01J 理事長)



1. 1987年からの20年間で「社会のスピード化」に対する意識の変化

昔…スピードが速すぎると頭がおかしくなるのではないか。

今…スピードのあるサービスで売り上げを守る。

この20年間は、日本人はスピードの時代を乗り越えてこそ生き残れるという時代。今後もスピードが落ちることはない。それが良いのか、悪いのかはわからない。日本人はそんな現実の中、歯を食いしばって生きている。

しかし、『時間』がどんどん軽くなり、『生命』がどんどん希薄になっている。

2. 学問の役割と、社会の求める人材

- 学問とは、喜びを体験すること

何であるか=自然科学・哲学

何をすべきか=人文科学

何が出来るか=工学

⇒総合科学=社会科学

経済学を何故学ぶのか? →経済学は、幸せを手に入れる道具である

- コンピテンシー (成果に結びつく行動8つ) が学問と社会をつなぐ

①問題点指摘 ②客観的調査 ③本質指摘 ④対策案創出 ⑤計画立案 ⑥遂行 ⑦目的達成 ⑧検証

3. もっと楽しく、もっと深く、もっと美しく創造的に

「ありたい自分」を想像し、そこへ一歩踏み出す。この過程の全てが『キャリアデザイン』。

- 難しいことを楽しく [労働価値観]
- 楽しいことを深く [技術価値観]
- 深いことを美しく [表現価値観]

「立命」の言葉に託している創立者の熱い思い＝使命感を自覚して生きはじめる

● 学生の感想 ●

- ✦ 昔に比べて「時間」がどんどん軽くなる、「生命」がどんどん希薄になっていくという話がとても興味深かった。僕が考える「時間」というものは、この人生を生きるために与えられた限りのあるものである。また「生命」というものは、一度きりのものである。僕はそのような流行に流されないように生きたい。
- ✦ 昔はゆったりとした企業のありかたであったが、今の企業はキャノンを例に見てみると、あわただしい時間の中に存在している。従業員の行動もストップウォッチで計られていて余裕がない。それが今の社会なのだ分かった。昔では考えられなかった状態が今起こっている。こんな社会に出て行くのはすごく不安で、何かを知っていなければ生きていけないと思う。難しいことを楽しく、楽しいことを深く、深いことを美しくしていくとやる気が出るし、生きていて楽しいと思う。この大学生活で色々経験しながら、自分を見つけていきたいと思う。
- ✦ 印象に残っている言葉は、「センスは先天的についてくるものじゃない、半歩先を見て考えて身につくものだ」という言葉です。私は無条件にセンス＝先天的なものと思い込んでいたので、自分の考え方を転換するいいきっかけを与えて頂いたなあと思いました。
- ✦ 幸福感、感動することの大切さについて深く印象に残っています。高校時代は野球部で試合に勝つ喜びに向かってみんなで頑張っていました。何かに対して喜びを感じるということが最近はなかったように思います。今日からは何か夢中になれるようなものを見つけていけるようにしたいです。

● 充実した学生生活をおくる為に重要だと感じる事・それをどのように実現していくか ●

- ✦ 自分に与えられた役割をこなすことや、自分のやりたいと思ったことを続ける一途さを持つということです。そのために日々努力することで充実した学生生活をおくる事が出来ると思います。
- ✦ 疑問を持って学んでいくこと、ただ受動的に学ぶのではなく自ら進んでやるべきことを考えることが大切だと思う。自分のセンスをみがくために、色々な人に触れ、考え方を学んでいきたい。
- ✦ インプットだけでなく、アウトプットが必要不可欠であると考え。どんなことでも自分の意志を持ち、それに沿って行動することが大切だと思う。立命館大学は自ら何かをすることに対して色々なサポートがあるので、それらを最大限に活用して充実した学生生活をおくりたいと思う。
- ✦ 私にはまだ感動体験がない。大きな壁にぶつかっていない。もっと楽しく、深く、美しくあるように努力していき、感動体験をしたい。まず、自分とは何か、何をすべきか、何が出来るかについて考えてみたい。
- ✦ 他人や先生から言われた課題や問題をやるだけでなく、自分から何でもいいので始めることが大切だと思います。目標が見つからなくても、何か行動に移してみることで何かが変わるかもしれないと思います。これから自分から何か始めてみようと思いました。

第11講 2006年12月6日

講義テーマ『仕事・会社をめぐる法と権利』

講師 笹山 尚人氏（東京法律事務所・弁護士）



1. 今、「雇用」「労働」の分野で現実に行っていること

- ① 非正規社員（期間の定めのある労働契約を結んでいる人たち、パート、アルバイト、フリーターなど）の激増。
- ② 労働者の階層化の進行。年収300万円未満（月収25万円×12ヶ月）の層と年収1000万円以上の層が増えている。ワーキングプア（働いていても貧しい）な人達の増加。女性の二極分化。成果主義賃金。

安定的にかつ相当に稼げる人と、そうでない人との二極分化が進行＝格差社会

2. 広がる労働者の無権利と労働力政策の転換

いじめ・パワハラ・セクハラ等、様々な雇用関係上のトラブル。労働力政策の転換には95年の経団連の発表による労働者の仕分け<①幹部（正社員）②専門（年俸制）③柔軟（有期契約型）>03年の労基法改正等法改正が、社会全体の構造的、意図的に引き出される非正規社員、格差社会に関連。

3. 労働法とは

労働基準法、労働組合法を頂点に多数ある労働法の集合体のこと。使用者にとって自由を奪う制度であり義務を課す法制度である。雇用関係でトラブルが起きたとき、それが法律でどうにかなることなのか、どうにもならないことなのか（労働法によって守られていることなのか）を見極める力をもつことが大切。法令の使える部分を知っていて欲しい。

トラブルと労働法の活用例

- ① J社事件・・・時間外手当の未払い（少ない人で35万円、多い人で200万円）→労働基準法37条 時間外労働に関する賃金の割増。

- ② パワハラ、雇い止め事件・・・派遣労働者のFさんが派遣先から過剰な仕事を言いつけられるなどのパワハラを受け、抗議をしたら契約更新されなかった。→労働者派遣法、雇用機会均等法など
- ③ Yさん解雇事件・・・ある食品製造会社の事務職正社員が、能力が足りない、協調整がないとして解雇された事件。→労働基準法 18 条の 2「解雇は、客観的に合理的な理由を欠き、社会通念上相当であると認められない場合は、その権利を濫用したものとして、無効とする。」

学生へのメッセージ

働く中で使える労働基準法。人の尊厳をふみにじってはならない。
やりたいことが思い通りにいかないことも多いが、自分らしい目標を見つけ努力とのバランスを取り人生を有意義に。挫折しても人格の実現として権利の実現と自己実現が可能。

♥ 学生の感想 ♥

- ✦ 労働法について勉強して、まず無頓着にしていはいけなと感じました。おかしいと思ってもアクションを起こさなかったりすることは「権利を行使していないんだ」とこの授業を聞いてひしひしと感じました。特に労働法を知ることは自衛手段だとおっしゃったことは、私の考えに大きな影響を与えました。
- ✦ 男女雇用機会均等法などの男女平等のための法律が出来たにも関わらず、仕事や会社における男女の差がまだ残っているということは非常に残念なことだと思った。
- ✦ 労働基準法では定められているが、実際には法に違反しているという事態は私達の周りに身近にある問題だと思います。雇われる側は、立場的におかしいと思うことがあっても訴えることが難しいことも事実です。今回の講義で自分があまりにも無知であったことを反省したのと同時に自分の身を守るために先生のアドバイスを活かしていこうと思います。
- ✦ 不正な契約をしている企業が多いなと感じました。自分が勤める会社でも、こんな事になるのかと少し不安になりました。労働法というルールをしっかり身につけて自衛出来るようにしたいです
- ✦ 今回の講義を通じて、仕事・会社での問題について知りました。今後、このような問題が改善されなければ若者の労働や就職に対しての意識が下がってしまう恐れがあると感じました。
会社はもっと労働制度を見直すべきで、私達若者も労働法などの法律について勉強し、この問題について真剣に考える必要があると思いました。
- ✦ 現在の社会の効率重視、政府が企業のやり易いように法律を作っていく現状があるので、派遣労働者等に悪条件な社会になってきている。そんな社会に生きているから、労働基準法を学び自分に係わるどころくらいは知っておいた方がいいとわかりました。
- ✦ 派遣社員の増加とともにトラブルも増えてきている中で、法律が派遣システムをバックアップしているというのが、少し気になる場所である。仕事をする上で、法律がかなりの割合で関係しているという事実を知りました。少しでも労働者が働きやすい環境になるように望んでいます。

第12講 2006年12月13日 / 第13講 12月20日

講義テーマ 「自分株式会社を経営せよ」

講師 榊原 清孝氏

(株式会社リンクアンドモチベーション 取締役 エントリーマネジメントイースト事業部担当)

第12講



これからキャリア形成論「自分株式会社」

1. 雇用システムの変化に伴い企業と個人の関係が変化してきている。

「縛り」「縛られる」関係から「選び」「選ばれる」関係へ

① 相互拘束型の関係

企業（右肩上がりの成長）⇔個人（豊かな消費生活）

② 相互選択型の関係

企業（競争優位性の確立を目指した選択行動）⇔個人（自己実現・市場価値行動を目指した選択行動）

自ら考え、自ら行動し結果を出せる人材を企業は求めている！

2. 個人のキャリア形成

自分株式会社の代表取締役という視点でキャリア形成を行う。繁栄させるためには、やりたいこと、やるべきこと、やれることの輪の中で自ら Plan-Do-See を重ね輪の重なりを大きくしていくことが重要。

やりたいことを把握するための3つの手法

① 自分のモチベーション特性を知る。

② 自分の「栄光と挫折」を捉える。

③ 自分のロールモデルを設定する。

やりたいことを1回生の時点で明確にするのは難しい・・・

→自分はどうなりたいのかを具体的な人物でイメージする。『ロールモデルの設定』

◆ワークシートを通じて3つの手法を理解する

いくつかの質問に答え、自分はどんな時にどんな反応をするのかを挙げ、そこから自らの性格や特性を知る。大学入学後からの現在までのモチベーション状態をチャートで表し、モチベーションの高低

から自己分析をする。(ワークシートⅠ・Ⅱ)

- ◆ 自分株式会社の設立 経営戦略表(ワークシートⅢ)の作成を通じて、目標設定、目標を達成するための具体的な行動を記入することにより、今後の学生生活の明確な方向性を自認する。

(やりたいことを設定するために、どうなりたいのか、ありたい姿をイメージ)

ステップ①:「目標とすべきアイコンパニー(ロールモデル)」を具体的な人物で設定する。

(ワーク①:目標とする人、あるいは尊敬する人とその人を選んだ理由の記入)

ステップ②:目標とするアイコンパニー及び自分自身を分析し、今後の方向性を設定。

(ワーク②:目標とするアイコンパニーの特徴・強み、自分自身の強みと課題、今後自分に必要な点を「スタンス面(姿勢・態度・考え方など)」、「ポータブルスキル面(コミュニケーション能力・課題解決能力・自己管理能力)」、「テクニカルスキル面(専門知識・専門スキルなど)」に切り分けて記入)

ステップ③:3回生になるまでの「アクションプラン」をマーケットごとに立てる。

(ワーク③:「大学の講義」、「課外活動(クラブ・サークル・バイト・インターンシップなど)」から3回生までに得る力とそれに向けてのそれぞれの場所での具体的な行動を記入)

♥ 学生の感想 ♥

✦ 価値創出の主体が時代によって、業界→企業→個人と変化しているのはなるほど、と思いました。今は個人が最重要視されているというが、どのように行動するのか、その行動すべきことをどのように考えればよいかをきっちりと分かっていませんでした。でも、今回「やりたいこと」「やるべきこと」「やれること」のお話を聞いて、ビジョンの立て方が分かったのでよかったです。

✦ どんなときにモチベーションが上がるのかをよく考えてみると、何かに頑張っているときで、そしてそれが楽しいときだということがわかった。私は頑張っている自分が好きなので、自分をもっと好きになるためには、自分で自分を裏切ってはいけないと思った。自分がやろうと決めたことや、やるべきだと思ったことは必ずやる。いつも後悔して自分を責めることが多いので、思い切って何事にも挑戦していきたい。

✦ 日本の雇用システムにおける企業と個人の関係が、企業と個人がお互いに縛り縛られている関係の「相互拘束型」から企業と個人がお互いに選び合うことが出来る「相互選択型」へ変化したことを知り、今の時代には自分をしっかりと確立することが大切だと感じました。

✦ ワークシートで自己分析をして、自分のタイプが自分とぴったりなのは大変驚きました。自分自身を自分自身が理解する事で、自分の良い所をどんどん伸ばし、悪いところを改善していきたいと思いました。「やりたいこと」「やるべきこと」「やれること」の共通部分を増やしていくことで、自分が選ばれる人間に近づけることを教えていただき、身近なところからやっていこうと思いました。

✦ ワークシートをやってみて、現代の自分から過去の自分を見つめ直し、自分は一体どんな人間であるか、モチベーションがどのようなときに上がるのか、などを考えることはとても大切だと思った。自分株式会社を経営するにあたって、自己分析し、自己のキャリアを形成するきっかけを作れたことがうれしかった。

第13講



1. 前回作成した経営戦略表（ワークシートⅢ）をもとに、アクションプランについてペアで発表、フィードバックを行う。

・ フィードバックの際の注意点

①相手の成長を本気で想うこと。②代替案のない否定はしない。③自分を棚に上げること。

適切な目標設定をする上でのポイント—SMAP— Specific「具体的」か。Measurable「測定」できるか。Attractive「魅力的」か。Period「区切り」があるか。

2. ワークシートⅣをもとに、自分の指向を知る。

・ハンター指向…過去の慣性に捉われることなく新しい分野で果敢に挑戦する仕事がしたい。新規開拓、営業職などに向いている。

・ファーマー指向…既存の仕組みや考え方・経験を尊重し仕事をじっくりと継続して行ないたい。1つのところでじっくりと。

・ゼネラリスト指向…組織性かを重視したい。広範囲な知識や幅広い経験を持ちたい。

・スペシャリスト指向…個人成果を重視したい。自分の判断で物事を進めたい。深い知識や優れた技術を持ちたい。自分の技能向上に喜びを感じる。

3. アクションプランを実行していくポイント

①自分の「やるべきこと」から逃げない。

②「変えられるもの」にエネルギーを集中すること。

（例）大学入試の日、渋滞で遅れているバス・・・、第一志望の合格結果が1週間後・・・

来ないバス、1週間後にしかやってこない合格発表の日を待つことにエネルギーを注ぐよりは、自分で変えられることにエネルギーを集中する方がよい。

「変えられるもの」	VS	「変えられないもの」
「思考」「行動」	VS	「感情」「生理反応」
「自分」	VS	「他人」
「未来」	VS	「過去」

③変革は臨界点を超えるまで根気強く。

4. やれることを広げる

- ①自分の成長を実感するまであきらめない。
- ②時間を区切って意味付ける。
- ③自ら主体的にきっかけを創り出す。…「ちょうどよかった、これをきっかけに△△」

♥ 学生の感想 ♥

- ✦第13講を受講して、自分の理想とする人を分析しました。自分の理想とする人はスポーツ選手でしたが、考え方を分析してみるととても参考になることが多く、その生き方に感銘を受けつつも、自分もそういう人間になりたいと思いました。また、自分のアクションプランを書くことで、これから自分がやらないといけないことなどを再認識することが出来、とても引き締まりました。
- ✦私はいつも変えられないものに対して苛立ち、不満などを言っていた。それよりも変えやすい自分や自分の考え方を変えた方が、一歩前進出来るし、ストレスもたまらない。また、人間関係が上手くいかないときも、いつも他人のせいにして、自分は悪くないと思っていたのでなかなか上手くいかなかったが、自分からより良い方向に変わっていけば、自然と他人も良い方向に変わっていくんだということに気づかされた。私はこの授業でとても励まされた。未来を見据えて、これから自分の努力でよりよい未来を築いていきたい。
- ✦12,13講を通して、「選ばれる自分」をつくるための下ごしらえのようなものが出来た気がした。まだ1回生ですが、2回生、3回生になっても今回のような将来への道しるべとなるような授業はいつも頭の中に入れておきたい。
- ✦自分のロールモデルについてのプレゼンは非常によかった。今までのキャリアデザインの授業ではこのようなプレゼンはなかったので、新鮮だったし、相手の意見もフィードバック出来て、より良いロールモデルの参考になった。自分のロールモデルと今の自分を見比べることにより、さらなる「自分株式会社」の経営につながった。
- ✦適切な目標を設定する上でのポイントになる「SMAP」というのを習いました。この中で私は「Period」に注目しました。目標を立てるとつっぱしってしまいがちですが、区切りを決めることによって計画的に、より明確に目標に向かっていけるように感じました。これからは「SMAP」をベースに目標を立てたいと思います。
- ✦前回用意したワークシートを使っただけのペアワークは意義があったと思います。このキャリアデザインの授業の良い点として、自分に今ある視点からキャリアを形成するだけでなく、講師の方や同じ立場の経済学部生の視点を取り入れてキャリアを形成出来るところがあると思うからです。
- ✦この授業を通してこれから生かそうと思ったことがあります。それは、「自ら主体的にきっかけを創り出す」という事です。主体的に行動を起こして伸ばしていきたいのは、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、基礎学力です。常に高い意識をもって毎日の生活を送っていきたい。

第14講 2007年1月10日

講義テーマ 『キャリア形成科目を振り返って』

講師 平田純一教授（立命館大学 経済学部長）



今後のキャリア形成のためには、まず自分のキャリアをどうしたいかという「意志」がなければならない。

1. 人はなぜ働くのか

人間は生きていくために、衣食住を確保しなければならないが、昔は自給自足であった。現代は生産の効率性が追及され、分業体制が確立している。

この分業体制の一部を担当することによって、自分自身の衣食住を満たすことが出来る。分業体制の一部を担うことを「働く」と言っている。

楽で収入の多い仕事があるわけではなく、働くということは苦痛や工夫を伴うものである。

分業体制を効率的に進めるためには、各自が自分に合った仕事を見つけ、能力を最大限に生かすための準備を行う必要がある。

キャリア選択（就職活動）には最低でも約半年間のエネルギーを必要とするが、3ヶ月～半年で辞めていく若者が多いのが現状である。

2. 一生の収支はどうなるのか

働くことの目的が収入を得る事ならば、一生でどれだけの収入を必要とするのかを認識しておく必要がある。参考：これまでの人生でどれだけのお金を必要としていたのか。

大学4年間でかかるお金 例) 私学で下宿の場合・・・約1000万円

- ・ 個人の基本的な選択によって金額的に大きく異なる：結婚するかどうか、何人子どもを持つか、住宅の形態をどうするか（一戸建て、マンション、買うか借りるか、親から引き継ぐものがあるか）
- ・ 就業形態と収入の関係：正規雇用かアルバイトや契約による雇用か。
- ・ 正規雇用：基本的には年功序列賃金(初任給20万円程度)+賞与=名目。実質=給与から所得税、健康保険失業保険、年金の掛け金、地方税、等が天引きされる。
正規雇用の場合、給与の上昇率は職業によってかなり違う。「給与体系」はキャリア選択の際の一つの基準として考えるとよい。
- ・ アルバイト・契約による雇用=時給1,000円としても週40時間労働で月18万円程度。

各種手当、賞与は原則的にない。社会保険の掛け金も個人負担が多い。

上記ふたつの働き方を比べると、生涯賃金の格差は半分（1/3程度）で歴然である。

- ・ 転職の可能性とコストベネフィット：長期雇用が一般的だった日本でここ最近では労働の流動化が進んだとも言われるが、実際は転職によって収入が増加するとは限らない。若い時期の転職の方が収入増加傾向は高い。人生をどうするかと合理的に考える必要がある。（例：業種、職種、結婚、共稼ぎ、子供の進路等）

3. 働くための準備

自分の適性を知り、やりたい仕事と出来る仕事を組み合わせる。

自分自身の強みと弱みを自己評価することが前提となる。実際の仕事の中身とそれに必要となる知識の関係を正確に知るための一つの方法としてインターンシップがある。

男女の職業選択の相違も存在する。資格を取る目的も考える。

4. まとめ

実際に就職活動を行うまでの間に、やっておくべきことは多いが、経済学部的基本的なメニューをこなすことが基本。学習面以外では社会的視野を広げ、対人関係を学ぶことが重要となる。また、自分自身の将来をどのようにしたいかを考え、必要な学習と情報収集を行う必要がある。

担当講師、運営担当からの
感想またはメッセージ

第1講担当講師 大西純一氏(株式会社学研メディコン 就職支援システム 特販部長)より

第1講を担当した大西です。はやいものでこの講義録が完成するころには皆さんも2年生ですね。この1年はどのような1年だったでしょうか？

私は講義の中で、複雑な現代社会の様相を、私なりに「静態的視点」と「動態的視点」から皆さんに提示してみました。まず今の世の中全体が「どのようになっている」「どういう方向に進んでいくのか」を知った上で「自分がどうすべきか」を考えていただきたかったからです。

とりわけ「社会はどうあるべきか」、そして「自分がどうすべきか」を考えるにあたっては、一見不要に思われる文学や哲学、歴史といった人文系の知識、素養が重要な役割を果たすことを思想家や経済学者、批評家の言葉とともに紹介しました。

現代は膨大な商品の流通と同様、インターネットの出現ともあいまって、さまざまな情報が氾濫しています。そんななかでうっかりしていると、右往左往や右顧左眄といった言葉に代表されるように、わけがわからないままに、翻弄されることになってしまいます。

振り返ると大学時代というのは貴重な時間の宝庫です。私は再三「就職のための学生生活」にせず「結果として就職が決まるような学生生活」にしてくださいと言いました。

体を鍛え、多くの友人先輩と交流し、一見役に立たないと思われるような本(社会に出るとなかなか読む機会のない本)もたくさん読んで、悩みながら考えてください。今後の人生を貫く「軸」の原型を作ってください。

「立命館に入ってよかったなあ」と思えば就職は決まります。そこに含まれているものはその後の人生の、ときに訪れる「厳しい局面」を乗り越える大きな力となるはずです。

「立命」の由来、疾寿(ようじゅ)貳(たが)わず、身を修めて以て之れを俟(ま)つは、命を立つる所以(ゆえん)なり」を心のどこかに刻んで、時間をかけてご自分の「命を立つる所以」を時間の中に輝かせてください。次代を担う皆さんに期待しています。

第2・3講担当講師 長谷真吾氏(株式会社シンカ 代表取締役社長)より

今の学生の素直さ、やさしさは、大きなイデオロギー変化のない時代に生きたことに起因しているのかもしれない。しかし、おおらかに生きてきた彼らの将来は格差社会が現実となり今までとは180度違う、厳しいものになるでしょう。

自らのキャリアを自分でデザインしないといけない時代になり大学生活の4年間で学生にとって将来の人生デザインにより多大な影響を与えることになってきています。採用、教育分野の仕事をする人間としてこの講義の担う責任の重さを痛感しています。

第4・5講担当講師

小林真里氏(松下電器産業株式会社 グループ採用センター 定期採用チーム主事)より

皆さん、コミュニケーションの講座はいかがでしたか？

その後の日常生活に役立っていますか？うなづき、相槌、OKですか(笑)。

コミュニケーションは私達のあらゆる生活シーンで、非常に重要な役割を果たしています。

家庭生活、友人関係、先生との関係、クラブやサークルでの上下関係、そして、社会に出たら職場の人間関

係やお客さんとの関係などもコミュニケーション能力に影響されることが多くあります。

そのことを意識して、今のうちからあらゆる世代の人と話をし、コミュニケーション能力を伸ばすトレーニングをしておく必要があります。

皆さんは若く、エネルギーに満ち溢れています。失敗したり傷ついたり(時に傷つけたり)する経験をたくさんして、コミュニケーション能力を伸ばして行って下さい。実践こそ、コミュニケーション能力を伸ばす最良の方法です。

またお会いすることがあれば、その時はお互いに楽しくコミュニケーションをとりましょう。

第6講担当講師 小沢拓己氏(株式会社電通 第6営業局 営業部)より

最初はキャリアデザインと言われてもピンとこないまま授業を受けている人がほとんどだと思います。自分ももちろんそうでした。ただ、2年後・3年後には自分の道を自分で切り拓く機会が必ず訪れます。そして、道を切り拓く鍵は皆さんが今まで基準にしてきた偏差値などではなく、自分の意思そして能力です。意思、能力とも一朝一夕で得られるものではなく試行錯誤をしながら体で身につけるものです。

この授業を通して学外の方から刺激を受け、日常の中から自分の未来に続く道を見つけ出すことができれば素晴らしいと思います。立命館大学は大学側が十分なサポートをしてくれますがそこに甘んじることなく果敢に挑戦することを期待しています。

第8講担当 坂田圭教授(立命館大学経済学部助教授)より

私の担当した講義では、学期の後半だったせいか私語が多かったように思いました。「キャリア・デザイン」のように、学術面のみならず実務面からもキャリアを考える講義は大学で他にありません。大学生活の早い段階でキャリアに関して意識を高めることは、納得のいく進路選択に将来つながります。せっかくの機会ですから、この機会を最大限に活かしてください。

第9講担当講師 古川彰教授(立命館大学 経済学部教授)より

私の講義は1回だけでしたが、少なくとも3回分ぐらいの内容を申し上げたつもりです。世の中、就職戦線が売り手市場と大合唱ですが、就職活動はキャリア形成の第一関門、皆さんの最終ゴールはその後の長い職業人生、さらに退職後の人生も含めて、刺激的で創造的で悔いのない生きがいのある人生を送れるかどうかで決まるのです。講義と重複する点もありますが、3つのことを申し上げます。

第1に、講義への皆さんのレポートのなかには、キャリア形成のためにたくさん資格を取るとか、ただ「バイト」とだけ書いてあるものもけっこうありましたが、それより何より経済学をよく学ぶこと。学問とは、そこから得た知識を活用するだけでなく、未経験の事態に遭遇したときにどう考えどう行動すべきかを考え決断するための論理回路を脳みその中につくることが大目的。経済学を学びそれを応用して現実社会の分析を試みることは、まさに論理的にもの考え人とコミュニケーションするための最高の訓練の場でもあるのです。

第2に、むやみに他人の言っていることを信じ込まないで自分で考えてみる。政府も政治家もマスコミもみな同じことを言っていたら、それは誰かが自分の利益のために世論操縦を行っているかもしれないと疑ってかかることです。

第3に、とにかくたくさん本を読むこと。著者の主張や、自分のアイデアを読者に伝えたいという秘められた情熱を感じ、理解することで、自らの思考回路を豊かにし、複線的にすることができるのです。インターネ

ット情報にばかり頼ってはいけません。ネット情報はまさに玉石混交、ゴミの山の中から宝物を探し出す能力は、本を読むことでしか養われません。
では、楽しく創造的な学生生活をお送りください。

第 10 講公開講義担当講師 横山征次氏(デジタルトウキョー株式会社 代表取締役社長)

後輩のためのキャリア講座を、全て上級生が独自で仕切っていたという点に、まず目を見張りました。もう長くやっておられるようですが、とてもいい方法であると思います。

企画立案から交渉、打ち合せ、演出までの体験は、ものごとの“段取り”を実践的に学ぶこと出来、社会人基礎力育成という点で、学生にとっては得がたい経験であると思います。

学生たちは余り意識していないようですが、こうしたことを通じて外部に人脈を作ることのできる点も大きいのではないかと思います。

失礼になってはいけないのですが、「学ぶ」という精神を忘れず、この講座をきっかけに以後も関係を続けることをやっていいのではないかと思います。

少なくとも、私の場合は、そんな学生は大歓迎です。

聴講する学生達の態度もよかったですと思います。講師の言葉を聞き漏らすまいという真剣な眼差しが印象的でした。講演が終わってからも聞き足りない学生達が 10 人近く壇上の前に集まり、思い思いに質問して 30~40 分間も放してくれなかった(?)のには参りましたが、楽しい時間でした。

大学 1 年の後半で、自己の問題意識に目覚めてしつこく質問をする学生達がいることは驚きでした。そういう問いかけをしている講座がきっと他にもあるということで、全体的な教育の充実ぶりを感じる事が出来ました。

1 年の時期にこの講座に限らず、もしまだやっていないようなら、「学問とは何か」「人生とは何か」「現在の社会問題とは何か」などの根源的な問いかけをする講座を体系的に設け、高校時代との違いを考えさせ、問題意識の“芽”を作ってやることも必要のように思いました。

第 11 講担当講師 笹山尚人氏(東京法律事務所 弁護士)

私の講義を聞いていただいた皆さんに感謝いたします。私の話が少しでもお役に立てればこんなに嬉しいことはありません。

学生のみなさんをお願いしたいことは、3つです。

1つは、社会について広く知って欲しいということ。新聞やテレビはある種の価値観に基づく情報の選別がなされており、それを見たからといって世の中のことがわかるとは限りません。また、それらの情報に接してもそれをどのように理解したらいいのかわからない場合もあると思います。

まずは、様々な媒体を通じて、世の中でどんなことが起こっているか、ありのままの事実を知るようにしてください。自らの価値観をいったん脇において、起きている事実をありのまま受け止めて下さい。

インターネットは、その意味では情報流通ではまだ公平性があるでしょうね。良かったら私が所属している団体、青年法律家協会や、自由法曹団、また私の所属事務所、東京法律事務所のページなどをのぞいてみて下さい。

2つめに、自分たち自身が、社会のあり方について知った話をどのように見ればいいのか、どうしたらそのような問題について解決できるのか、学生同士で話し合ってみて欲しいと思います。情報交換にもなりますし、他人の見方から学ぶことも多いはず。

最後に、自分に何が出来るか、あるいは出来ないか、他人と一緒にいたら自分では出来ないことをできるようになるか、を考えてみて下さい。私たちは主権者です。社会のありようについて、自分たちで決定する権能を持っています。しかし、その権能をほったらかしにしている、社会のありようというのは、結局は、私たち自身の生活に戻ってきます。仙人になって生きることはできないのです。

労働事件の場合について言っても、法律の力でどうにかできることと、そうでないこともあります。法律も、使わなければ絵に描いた餅。結局は、私たち一人一人が、どうするのが問われているのです。

私がお話したような社会の現状を知れば知るほど、社会に参加することが怖いように思われるかもしれませんが、世の中では、自分一人ですべて出来ることは少ないのです。みんな他人の力を頼りながら、助け合って生きています。自分一人で抱え込まなくてもいい、困ったら誰かに相談しよう。そんな気軽な心がけを持ちながら、それでも、自分としてのプライドは持てるように、そんなふうに参加を受け止めてもらえればいいのではないかと思います。

その準備期間として、今の学生生活を、充実して送っていただけるよう願ってやみません。みなさん一人一人が、社会を知り、自分ができることを知ることで、世の中は少しずつ良い方向へ変わっていくと思うからです。

第 12・13 講担当 榊原清孝氏 (株式会社リンクアンドモチベーション 取締役)より

いま社会で求められているのは、アイコンパニーの経営者マインドを持った強い個人です。是非、誰からも選ばれる最強のアイコンパニーをめざして、頑張ってください。

大事なことは、変えられるものにエネルギーを集中し続けることです。

+++++

第 11 講 公開講義運営担当 経済学部女子キャリアデザインプロジェクト所属・協力学生より

<4 回生 経済戦略コース 坂田 麻美>

秋口まで就職活動を行っていたため、今回の講演会は途中からの参加でした。初めて会う 1 年生のやる気や久しぶりに出会ったメンバーの成長に刺激され、再び女子キャリアの活動に燃え、皆でひとつの企画を成功させる喜びを味わえました。横山さんのお話は就職活動を終えた後だからこそ、今後のキャリアに対するモチベーションが上りました。来年は立命館生ではありませんが、来年も講演会と一緒にやりたい！と思うほど楽しい講演会でした。

<3 回生 ヒューマン・エコノミーコース 山本 真希>

私は、今回の講演会に大変満足しています。予想を上回るお客さんに来てもらえたことが一番うれしかったです。これは、メンバーのみんなが協力して広報したから得られた成功なんだと思います。また、昨年に引き続き司会を担当し、大勢の人と前で話すというとても良い経験ができました。昨年の反省を踏まえつつ、司会の役割もきちんと果たせたと感じています。今回の講演会は、私の学生生活においてとても大切な思い出となりました。

<3 回生 環境・デザイン INS 山川 樹林>

昨年に続いて2回目の講演会は、多くの学生が参加してくれ、また講師にも楽しんでもらえ、成功を実感した講演会でした。講演会スタッフとして参加してくれた1回生、2度目の講演会に取り組んでくれたメンバー、みんなが考え行動した結果がこの成功をもたらしたと感じています。私個人としても、さまざまな場面で問題を解決すること、意見をぶつけ合うこと、意思を疎通すること、そして先の先まで考えて行動すること

の大切さを改めて実感し、いい経験ができました。

<3 回生 環境・デザイン INS 大久保 奈緒>

私たちにとって今年の講演会は、2回目の試みでした。講演会を運営するのはとても労力の要ることなのですが、今年は去年の経験を活かすのはもちろん、新しく1回生の特別なスタッフと一緒にゆったりと新しいことも取り入れながら、順調に準備を進められました。また、メンバー一人ひとりに担当を割り振ったことで全員に責任感が生まれ、みんなで作り上げたという充実感いっぱいの講演会になったと思います。

<3 回生 環境・デザイン INS 増井 友香>

今回の講演会は、多くの学生にとってキャリアデザインとは何を指すのか、この概念がどのような時代背景をうけて生まれてきたものなのか、そして今の自分がすべきことは何なのかを知る非常にいい機会となったのではないのでしょうか。今回の講演会が学生のみなさんにとって何か一つでも将来について考えるきっかけとなればとてもうれしいです。このような素晴らしい講演会の運営に携われたことを非常に誇りに思います。講師の先生方、聴講生のみなさん、そしてスタッフ一同に心から感謝します。本当にありがとうございました。

<2 回生 ヒューマン・エコノミーコース 堀 麻衣子>

今年は去年と異なり、時期もよく天候に恵まれ、250 人もの人々に講演会を聞いてもらえてよかったです。誰もが経験できることではない、“講演会の企画から運営まで”全てを経験し、一つのものづくり上げるための苦勞を知りました。また、メンバー間での協力、周りの多くの人々と関わりの重大性に気付きました。去年は先輩に頼り、一人称の考えでの行動でしたが、今年は二人称の考え方での行動が取れたと思います。講演会を主催したことは、自分の中で貴重な経験になっています。

<2 回生 ヒューマン・エコノミーコース 川内 菜々>

今回、2度目の講演会スタッフを経験して改めて感じたことがあります。それは、何でもそうかもしれませんが、こういう多くの方の協力があって成り立つ講演会では何度リハーサルを行っても十分ということではなくて、1人1人がポジションを持ち自分の行動・役目を把握しておく、ということがどれだけ大切かが分かりました。講演者の関係者の方が、私たちがポジションと流れ確認をしていると、「そうそう。そういう小さなことがとても大切なんだよね。」とおっしゃられていた言葉が凄く心に残りました。

<2 回生 ファイナンス・情報 INS 瀬上 友里恵>

当日、予想以上に講演会参加者が多かったので、とてもうれしく思いました。講演内容も途中、ビデオを流すなどをされていて、楽しんで聞くことができたように思います。また、講演終了後も多くの学生が、講師の方のお話を聞くために残ってくれていたのが印象的でした。本番の準備が予想外のことがあり、戸惑う部分もありましたが、多くの学生に参加してもらえて良かったです。

<1 回生 経済学科 田尻 恭子>

講演会という、いつも自分が受ける側に立っていたことを、初めて主催する側に自分が立ってみてさまざまなことが分かりました。まず、私たちの活動のモットーはあくまで「学生に還元すること」であるから、学生の立場に立って、学生にとって今必要なことを提供することが大事になってくるのですが、そのことはとても難しいということを改めて実感しました。次に一つの団体で一つのことをやり遂げるには、個人一人一人の責任感がとても大事になるということです。逆に言えば、一人一人が責任を持って自分の仕事を遂行すれば、団体での活動においては規模の大きい、素晴らしいものを作り上げることが出来ると思えました。

<1 回生 サービス・マネジメント INS 磯口 友希>

準備期間から本番までが、今思うと本当にあっという間だったと思います。講演が無事成功し、横山さんからお褒めの言葉を頂いた時は素直に嬉しい気持ちになりました。この経験を来年からの後輩たちにもつな

げていけるように、また学生の皆さんにも今以上に満足してもらえるようにさらに向上していこうと感ずることのできるすばらしい講演ができたと思います。本当にありがとうございました。

<1回生 サービス・マネジメントINS 東谷 綾奈>

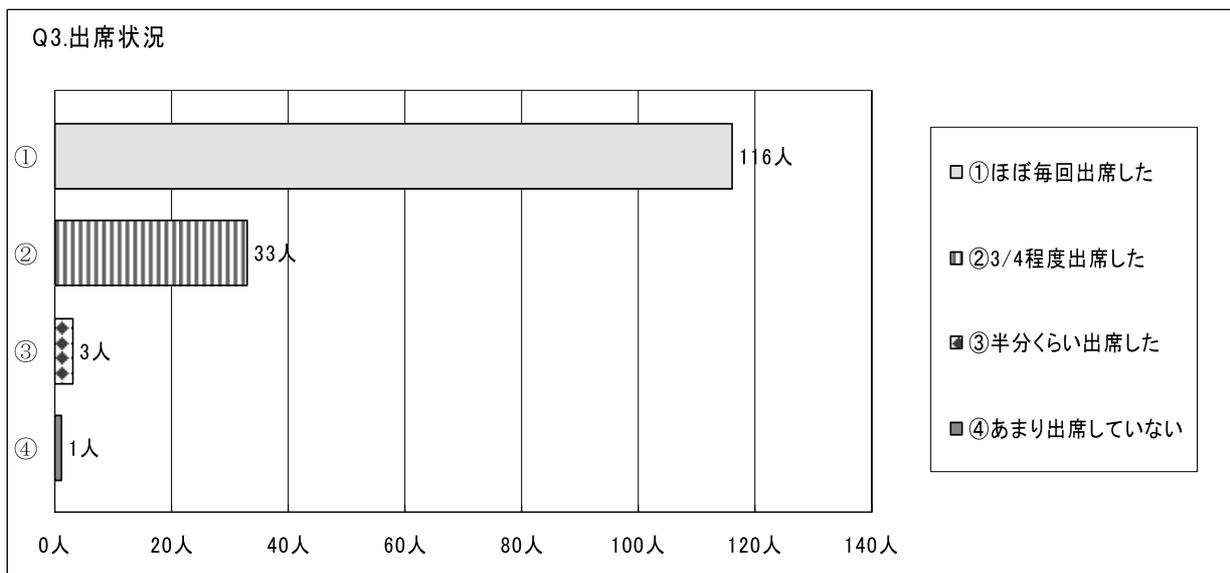
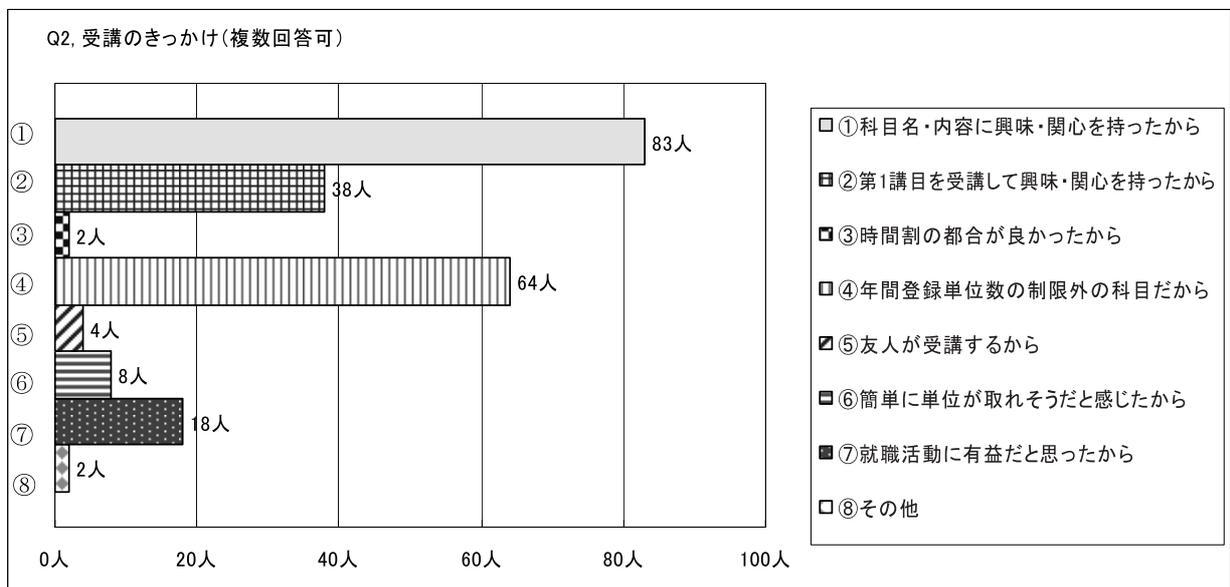
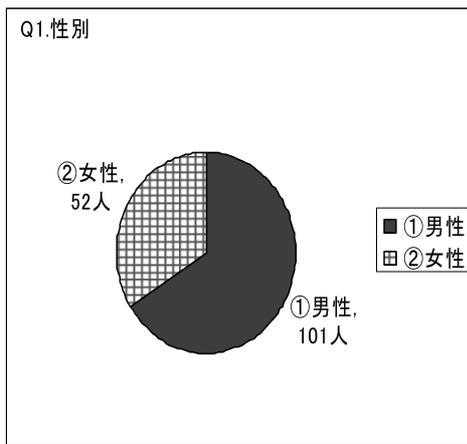
今回、この講演会の運営に携わり、初めて裏の仕事の大変さを身をもって知りました。今まで、講演会の運営などをしたことがなく、最初は、ただビラやポスターなどを作って宣伝をしたりするぐらいなのかと甘い考えを持っていました。しかし、実際は、講演者への依頼文作り、講演会の題名、ポスターのデザイン、ビラ配り、当日の予行演習など、ここでは挙げきれないほどたくさんの仕事があり、ひとつひとつ案を練って時間がかかりました。でも、終わった後はとても達成感に満ち、先輩方の一人一人が自ら動く姿に感心しました。いい意味で刺激的な事に関われ、とてもよかったですと思いました。今後、さらに良い講演会を作っていきたいです。

<1回生 経済学科 三宅 広志>

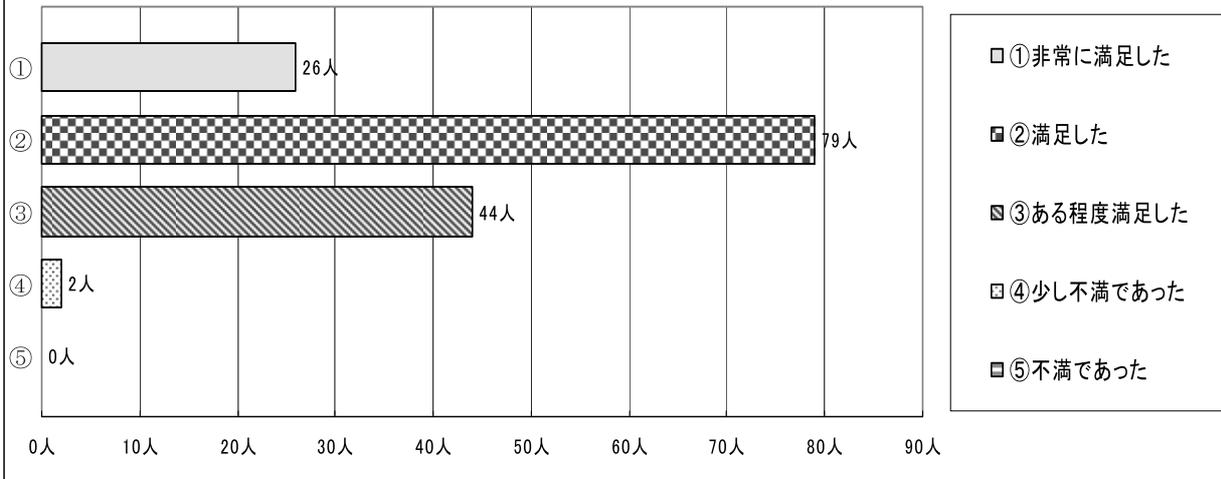
講演会をみんなで無事成功させることができとても良かったと思う。今回、横山さんの講演会スタッフとして参加させていただいたのは、アポが取れた後(10月半ばから)からで、途中参加というかたちでした。そのようなかたちでの参加でしたが、上回生の方たちに仕事の流れなどを教えてもらいながら、自分の役割を精一杯こなせたと思う。本番はみんなそれぞれ自分の役割を良く認識し動けていたと思うし、チームワークも良かった。また機会があればスタッフとして参加したいです。女子キャリ万歳！！

講義アンケート結果

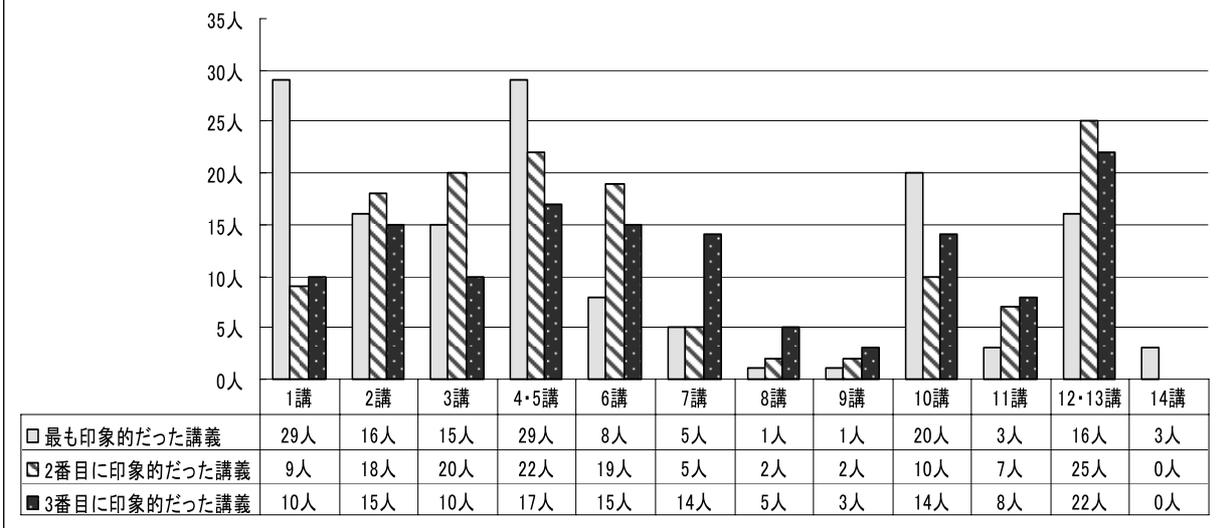
講義アンケート結果(2007.1.10 実施) 回答枚数 153 枚



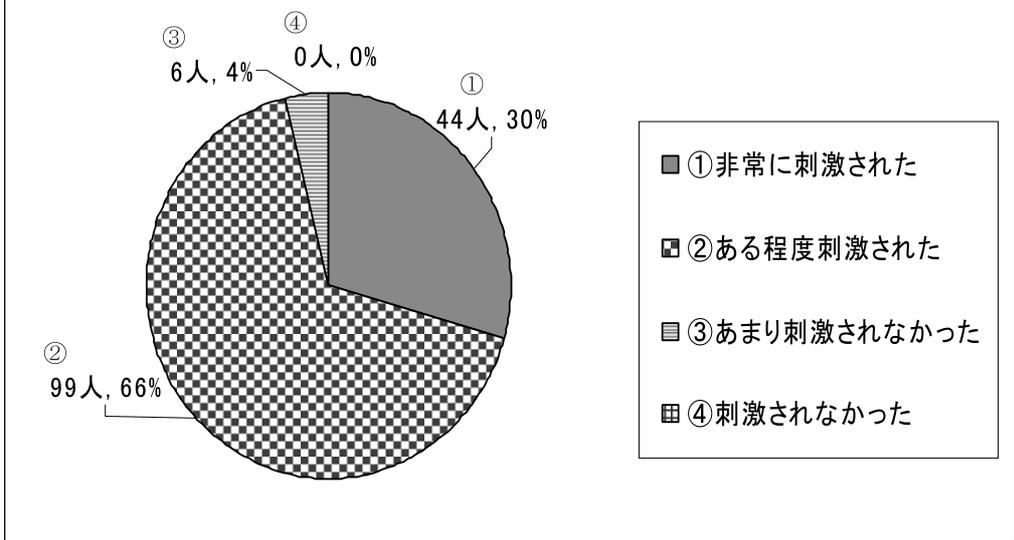
Q.4授業満足度



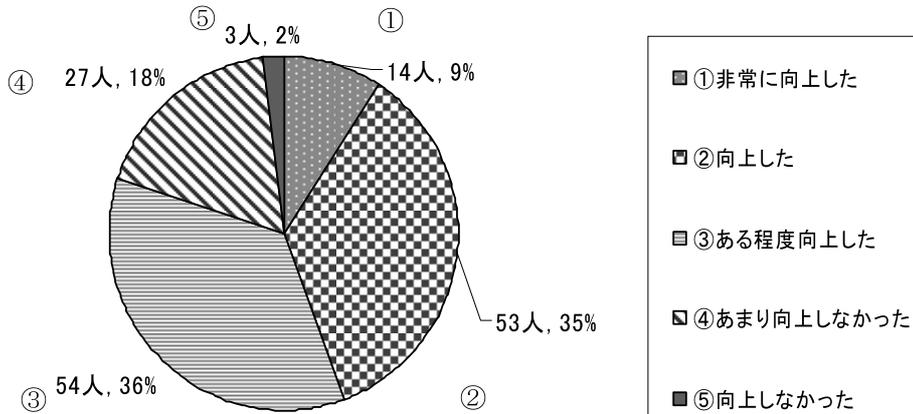
Q5. 印象的だった講義



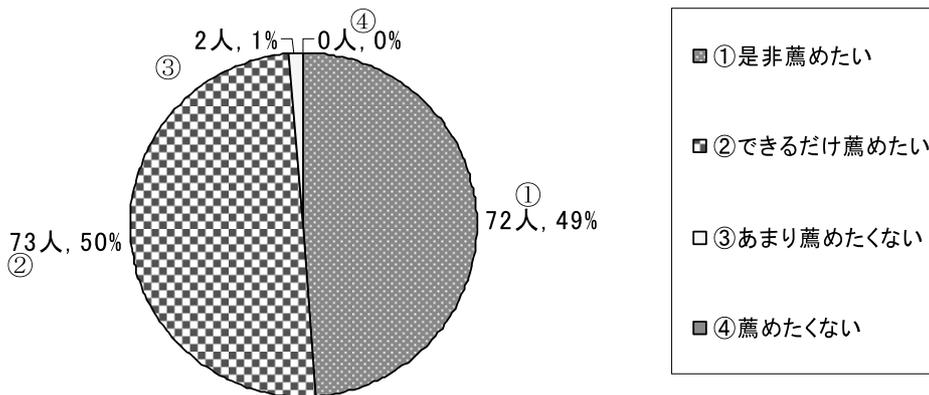
Q.6キャリア形成に対する意識の変化



Q.7正課科目に対しての学習意欲の変化



Q.8受講の推薦



👉 👉 👉 その他コメント 👉 👉 👉

- 様々な講師、色んな分野の人の話が聞けてキャリアを考えるに当たって非常に役立った。
- 自分を追求出来たし、「職につく」というイメージが持てた。前向きになれるような気がしています。
- 受講することで大学生活をより有意義に過ごすことが出来る。すごく自分の為になった！
- 入学してからの講義の中で一番楽しかった。
- 普通の授業だけでは目を向けられないことに目が向けられて良かった。
- 将来を創造するのにとても為になった。
- 自分から進んでやるのが向上意欲につながったので、考えてやることをもっと増やしてほしい。
- 他の授業にはないグループワークがあって楽しかった。もっとたくさんグループワークがしたかった。
- 話を聞いているだけの授業がためになるとは、あまり思えなかった。もっと学生が考えやすくなるような講義方式がよい。
- もう少し少人数で行えば、より良いものになると思う。
- 私語が多い講義があったのが残念でした。学生1人1人の意識を高める事が Best だと思う。

